

令和7年度 事業報告書 目次

ご挨拶

鳥取大学医学部附属病院長 武中 篤 (事業責任者) ……2

ご挨拶：事業報告書の刊行に寄せて

鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室室長 仁科 祐子 (事業担当責任者) ……3

令和7年度総括 ……4

令和7年度概要 ……4

事業概要 ……7

1 運営組織 ……7

1-1 鳥取大学医学部附属病院における事業の位置づけ ……7

1-2 連絡協議会 ……7

1-3 実施委員会 ……8

1-4 在宅医療推進支援室会議 (T-HOCミーティング) ……8

2 運営場所 ……9

2-1 在宅医療推進支援室 ……9

3 運営内容 ……9

3-1 在宅医療推進のための看護師育成プログラム ……9

3-2 出向プログラム ……9

3-3 事業連携 ……9

3-4 広報活動、業績等 ……9

事業内容 ……10

1 在宅医療推進のための看護師育成プログラム ……10

1-1 プログラム策定 ……10

T-HOCプログラム検討会 会議開催状況 ……10

1-2 プログラム連携 ……10

連携施設との連絡調整 ……10

1-3 受講・履修・修了の状況 ……11

受講生の属性 ……11

令和7年度各コース修了・進級状況 ……11

T-HOC在宅支援ナースの認定 ……11

1-4 プログラムの実施内容 ……13

I コース：在宅生活志向をもつ看護師育成コース

(基礎2年間) ……13

I コース：在宅生活志向をもつ看護師育成コース
(実践コース) ……16

II コース：在宅医療・看護体験コース ……18

III コース：訪問看護能力強化コース ……20

1-5 学習支援 ……24

訪問看護ステーションラウンド ……24

各病院の学習支援体制 ……24

DVD学習支援 ……25

専門書籍の貸し出し ……25

2 出向プログラム ……25

2-1 訪問看護ステーションへの出向システム
(T-HOC支援による) ……25

2-2 訪問看護ステーションへの出向実績 ……27

3 事業連携 ……28

3-1 看看連携による事業連携 ……28

3-2 その他 ……28

看護部教育支援室連絡会議 ……28

西部在宅ケア研究会 ……29

鳥取県訪問看護ステーション連絡協議会 ……29

4 広報活動 ……29

4-1 公開セミナー等の開催 ……29

T-HOC特別セミナー ……29

第6回T-HOC POCUSセミナー ……30

4-2 公開講義 ……30

4-3 事業ホームページ ……31

T-HOC HPのトップページ ……31

4-4 定期刊行物 (ほっこりな通信) ……31

5 業績と室員自己啓発 ……32

5-1 研究 ……32

5-2 学会・研修参加 ……32

在宅医療推進支援室より

鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室副室長 雑賀 倫子 33



ご挨拶

鳥取大学医学部附属病院長
武中 篤
(事業責任者)

鳥取大学医学部附属病院は、「地域と歩む高度医療の実践」を理念に掲げ、その実現に向けて前進し続けています。当院では、令和6年から令和7年にかけて、潰瘍性大腸炎・クローン病センター、児童・思春期精神科病床、脳卒中・心臓病等総合支援センター、鳥取大学ロボット手術研修開発センター『ToRSC (トルシー)』などを開設し、地域や社会の多様なニーズに対応する先進的医療の推進に努めております。

わが国では、団塊世代が75歳以上となる2025年を迎え、医療・介護を取り巻く環境は大きな転換期に入りました。高齢者人口の増加や疾病構造の変化により、医療機関には、治療のみならず生活を支える視点をもった医療の提供が、これまで以上に求められています。病院で治療を完結させる「病院完結型」医療から、地域や在宅での生活を見据えた「地域完結型」医療への移行が進む中、地域で中心的な役割を担い、在宅医療を支える訪問看護師の果たす役割は、ますます重要性を増しています。

このような背景のもと、当院では平成26年度末より、鳥取県の「地域医療介護総合確保基金」の支援を受け、「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」を実施してまいりました。本事業を通じて、病院看護師の在宅生活志向の醸成や、訪問看護師の人材確保・専門性向上に取り組み、着実な成果を重ねています。修了者は、高度化・多様化する在宅医療の現場において、即戦力として活躍し、地域医療を支える重要な担い手となっています。令和7年度には第11期生を送り出し、次の段階へと歩みを進めています。

今後も、地域包括ケアシステムのさらなる深化を見据え、在宅医療を担う人材の育成と継続的な教育支援の充実に努めてまいります。附属病院、医学部保健学科をはじめ、関係各団体・施設の皆様と連携を図りながら、本事業を通じて地域医療の質の向上に貢献していく所存です。

結びに、本事業の推進にあたり、長年にわたり多大なるご支援とご協力を賜っております鳥取県、鳥取県看護協会をはじめ、関係各所の皆様方に心より御礼申し上げます。本報告書が、令和7年度以降の在宅医療のさらなる推進に寄与することを願い、刊行のご挨拶とさせていただきます。

令和8年3月吉日



ご挨拶： 事業報告書の刊行に寄せて

鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室 室長
仁科 祐子
(事業担当責任者)

令和7年度は、本事業を鳥取県内全域のみなさまに知ってもらえるよう、周知に力を入れて取り組みました。また、昨年に引き続き、秋のT-HOC特別セミナーを中部で開催しました。鳥取県立厚生病院の花木啓一院長（元T-HOC室長）はじめ看護部の皆様のご厚意で、大変素晴らしい研修会場をお借りし、全県の皆様に参加していただくことができました。鳥取県立厚生病院の関係者の皆様には細部に至るまでご配慮いただき、心より感謝申し上げます。今後も全県のみなさまに本事業を知ってもらい活用してもらえよう、研修方法の工夫や研修内容の充実に努めてまいります。

さて、鳥取大学医学部附属病院が立ち上げました「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」では、在宅生活志向の育成と訪問看護能力の強化を目的として、平成27年度より「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」を開講し実施しております。プログラムの理念は、「家庭や地域での生活を志向した看護」を意味するHome-Oriented Care (HOC) です。この育成プログラムは3つのコースで構成されています。新任看護師の在宅生活志向を育てる①在宅生活志向をもつ看護師育成コース、病院勤務の看護職が訪問看護を体験する②在宅医療・看護体験コース、訪問看護師や潜在看護師の訪問看護能力を強化する③訪問看護能力強化コースです。新人からキャリアを重ねた看護職までの幅広い層を対象にしており、キャリア形成、リスクリリング、そしてよりよい看護の追求を支援したいと考えております。

これまで、受講生や関係機関のみなさまの声をもとに各コースの改善を行ってきました。平成29年度には、①コース（基礎2年間）の修了生を対象に、①コース（実践1年間）を追加しました。平成30年度から、本プログラム修了者等を対象に、病院から訪問看護ステーションへの出向プログラムを開始しました。今年度も病院看護師3名が訪問看護ステーションへ1年間出向し、訪問看護のOJT (On-the-Job Training) として就業しました。出向につきましても全県での取り組みとなるよう、これまでの成果をPRするとともに、出向者はもとより出向元と出向先の双方にとってもメリットのあるプログラムとなるよう、みなさまからご意見を頂戴しながら検討してまいりたいと存じます。

もう一つの変更点は、③訪問看護能力強化コースの充実です。「T-HOC在宅支援ナース認定コース」はこれまでの③のコースと同様であり、「訪問看護知識向上コース」を新たに開講します。認定コースでは1年間に30講義以上という要件がございますが、知識向上コースには受講期間の制限がなく、ご関心のある講義をご都合に合わせて受講していただけるコースです。より多くの訪問看護師のみなさまにご活用いただきたいと考えております。

本事業は看護師を対象としていますが、在宅医療と介護を担う多職種の人にも参加いただける機会を増やしたいと考えています。その一つに「公開講座」がございます。毎年ホームページに掲載しますが、7つ程度の講義を公開しております。どなたでもご参加いただけますので、是非、貴施設におかれましても、ご周知いただけますと幸甚です。今後も、プログラム実施につきましては、皆様方からの今まで以上のお力添えとご指導を賜ることができたら幸甚でございます。この度、年度末にあたり、令和7年度事業報告書を刊行させていただきます。ご高覧の上、忌憚ないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、忙しい勤務の合間をぬって参加してくださった受講生の皆様、受講生を送り出して頂きました各所属長の皆様、プログラム実施にご協力を頂きました、各訪問看護ステーションと医療介護施設、鳥取県看護協会、鳥取県下自治体、関係各所の皆様方に、厚く御礼を申し上げます。

令和8年3月吉日

令和7年度 総括

本事業は、鳥取大学医学部附属病院医療スタッフ支援センターに設置された在宅医療推進支援室において、同支援室の専任3名の教職員に加え、医学部保健学科、医学部附属病院看護部、米子地区事務部を中心とした医学部・医学部附属病院の協業により遂行されている。

本事業が実施する「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」は、在宅生活志向（Home-Oriented Care: HOC）の育成を基本理念に据え、新任看護師の在宅生活志向を育てる在宅生活志向をもつ看護師育成コース（Ⅰコース）、病院勤務の看護職に訪問看護を体験させる在宅医療・看護体験コース（Ⅱコース）、訪問看護師や潜在看護師の訪問看護能力を強化する訪問看護能力強化コース（Ⅲコース）、の3つのコースからなる。

本プログラム実施の11年目となった令和7年度には、3つのコースあわせて179名の受講生を迎えた。在宅生活志向をもつ看護師育成コース（基礎2年間）では、前年度からの受講生71名に加え、本年度に87名の受講生を迎え、HOCノートを用いた個人課題等により在宅生活志向を深めた。平成29年度より新たにⅠコースに設置した実践コースでは、5名が在宅医療の実践について学びをさらに深めた。Ⅱコースでは、病院看護師12名が訪問看護や退院後家庭訪問を体験した。Ⅲコースでは、訪問看護師の4名が訪問看護ステーション実習等により訪問看護能力を強化した。

この3月には、①コース（基礎2年間）67名、①コース（実践1年間）5名、②コース12名、③コース3名、合計87名が本プログラムを修了し、①コース1年次82名が2年次へ進級した。

平成30年度から、①コース（実践1年間）の修了者等を対象にして、病院から訪問看護ステーションへの出向システムを構築した。今年度は病院看護師3名が訪問看護ステーション3箇所へ各1年間出向し、訪問看護のOJT（On-the-Job Training）として就業した。出向中の受講生の勤務状況の把握と教育効果判定のために、在宅医療推進支援室スタッフが定期的に出向先でカンファレンスを持った。出向者・同経験者の情報交換を目的として交流会を開催した。

事業の広報とプログラムの深化を目的として、T-HOC特別セミナーを開催した。第16回T-HOC特別セミナーは、鳥取県立厚生病院において「在宅ケアにおける共感とwell-being～自分のwell-beingは考えていますか～」と題して、パネルディスカッション、ワークショップを主催した。

管理運営については、事業の遂行状況や今後の計画について協議するため2回の連絡協議会を開催した。プログラムの遂行状況の評価や受講・修了の判定のため3回の実施委員会を開催した。プログラム・事業の具体的な実施内容の検討のため、在宅医療推進支援室会議を計9回開催した。受講生による評価や学内外者からの助言を事業内容に反映させるため、2回のプログラム検討委員会を開催し、次年度プログラムのブラッシュアップを行った。受講の利便を図るために、講義情報をメールやホームページでの周知と、遠隔講義システム（Zoom等）を採用し遠隔講義を行った。

在宅医療と看護師育成についての洞察を深め、事業活動の全国への広報および情報交換を図るため、担当者や委員会委員等が、第30回日本在宅ケア学会学術集会、第15回日本在宅看護学会学術集会に参加した。

令和7年度 概要

1) 背景

今後、在宅医療・介護連携の推進のためには、病院看護師の在宅医療の理解を深めるとともに、訪問看護師の確保の強化を図る必要があります。鳥取県では、訪問看護ステーションあたりの看護師数が少なく、若手の就業が少ないことから、今後の訪問看護を担う人材を一段と拡充することが喫緊の課題とされています。

訪問看護師不足の要因、課題としては、「経験豊富な看護師でなければ難しいと言われる敬遠されている」、「新卒看護師の中には在宅での看護に興味があっても病院に就職すると病院の機能に応じた能力が求められる在宅看護の意識が低くなる」、「病院と異なり、1人で対応できる知識・技術・判断力、コミュニケーション力が要求される」、「能力の不安、処遇面の不満があり離職している」等があげられています。

その反面、訪問看護ステーションに従事している看護職の9割弱は、「やりがいがある」と回答しており、在宅医療が高度化する中で、継続就労のためには訪問看護スキルの強化を図る必要があることがわかります。

2) 事業の立ち上げと目的

平成26年度末に、鳥取大学医学部附属病院は、鳥取県の「地域医療介護総合確保基金」の支援により、「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」を立ち上げました。この事業の目的は、「在宅医療・看護の推進を図るため、入院中から在宅生活を意識することができる新任看護師等を育成するとともに、研修終了者のうちから一定数、県内の訪問看護ステーションに出向するシステムを構築すること等で訪問看護師の確保を図ること、ならびに、訪問看護師に必要なスキルを強化することで、訪問看護師の離職防止を図る。」ことです。

平成27年4月に、鳥取大学医学部附属病院は、本事業の遂行のため、医療スタッフ研修センターに在宅医療推進支援室を新たに設置し、専任4名（のち3名）の教職員を配置しました。

3) 育成プログラムの理念と別称

鳥取大学医学部附属病院は、本事業の目的を達成するため、平成27年5月に、在宅生活志向の育成を基本理念に据えた3つのコースからなる「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」を開講しました。このプログラムの別称は、「T-HOCナース育成プログラム」です。TはTottori、HOCはHome-Oriented Careの頭文字から、「家庭や地域を志向した看護ケア」を意味する本院の造語です。この言葉には、「病院看護師と訪問看護師が協同して在宅生活志向の看護実践を行う」という事業の理念とともに、「HOCナースが地域包括ケアシステムのなかで大きく羽ばたいて活躍して欲しい」という当院の願いを込めています。

4) 育成プログラムの内容

本事業の最終的な目的は、訪問看護師の就業数を増やし、彼らに高度化・多様化する在宅医療にも対応できる訪問看護実践能力を賦与することです。そのためには、まず、①在宅医療を志向する若手看護師数を増やし、②訪問看護を体験させて訪問看護師をキャリアパスのひとつとして意識させ、さらに、③現職の訪問看護師や潜在看護師の訪問看護スキルアップを図って、やりがいの創出や離職防止に繋げることが肝要です。

在宅生活志向を育み訪問看護能力を強化することを目的としたこの育成プログラムは、新人からキャリアを積んだ看護師まで、幅広い層を対象にしていることから、独自性が高いとして全国から注目されています。このプログラムは、現在の職場に勤務しながらでも受講することができ、県の支援による事業ですので受講は無料です。このプログラムは3つのコースで構成されています。

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース（HOCコース）

新任や就業後間もない病院勤務の看護師を対象にした、在宅生活志向を涵養するための計3年間のコースです。基礎コースの2年間は、集合研修やHOCノートを用いた個人課題からなり、続く実践コースの1年間（平成29年度より開講）では、訪問看護ステーション等での実習が加わります。

II 在宅医療・看護体験コース

病院勤務の3年目以上の看護職を対象とした6ヵ月間のコースです。訪問看護ステーション実習や退院後家庭訪問を体験して、訪問看護についての関心や知識を深めることにより、訪問看護師をキャリアパスのひとつとして意識できるように支援します。

III 訪問看護能力（Visiting Nursing Competency: VNC）強化コース

訪問看護師等を対象にして、訪問看護の継続教育と、高度化した在宅医療へ対応するための訪問看護能力強化を目的とした1年間のコースです。在宅医療・処置・管理等についての講義・演習、事例検討等の中から、受講者が経験や希望に応じて30コマ（60時間）を選択するオーダーメイド型の研修です。本コースは、訪問看護師としての再就職を希望する未就業看護師への復職支援プログラムの一部でもあります。

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

	I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース	II 在宅医療・看護体験コース	III 訪問看護能力強化コース
目的	在宅生活志向の病院勤務看護師を増やし、訪問看護へ進む人材を増やす	在宅を見据えた看護実践の強化や地域連携の技術取得	訪問看護師に必要なスキルを強化
対象	病院看護師（新人） a) 基礎コース 40名 b) 実践コース 8名	病院看護職（経験3年以上）、未就業の看護経験者（准看護師を含む） 30名	訪問看護に興味がある病院看護師、Ⅰ・Ⅱコース修了者、訪問看護経験者、未就業看護師（准看護師を含む） 8名
内容	a) 基礎コース：集合研修、ディスカッション、双方向ノートによる課題提出により、在宅生活志向を高める。（期間：2年間） b) 実践コース：訪問看護ステーション実習や訪問診療同行実習等による現場体験と、課題提出・振り返りを行う。（期間：1年間、基礎コース終了後に受講）	集合研修、訪問看護ステーション実習、退院後家庭訪問等を体験する。（期間：半年間）	在宅医療の技術管理等についての講義及び演習、事例検討によるグループディスカッション、課題提出等。内容は、受講者の経験や勤務等に沿って柔軟に対応する（オーダーメイド型研修）。（期間：1年間）

5) 受講・履修の状況

令和7年5月30日に開講式を開催し、179名の受講生を迎えました。Iコースの基礎コース受講生が増加している事は、看護師新人研修等に本事業を取り入れる病院が増えたことが考えられます。受講生の年齢層、勤務歴等の詳細は事業内容に後述します。

各コースの授業内容と履修状況の詳細については事業内容に後述します。Iコース(基礎2年間)については、双方向ノートによる個人課題の提出、集合研修出席、レポート提出を、Iコース(実践1年間)については、訪問看護ステーション実習、個人課題の提出、集合研修出席、レポート提出を、IIコースについては、集合研修出席(T-HOC特別セミナー含む)、訪問看護ステーション実習、退院後家庭訪問実習、レポート提出を、IIIコースについては、自由に選択した30コマ以上の講義受講、訪問看護ステーション実習、地域包括支援センター実習、レポート提出を求めました。

受講の利便を図るために、講義情報をメールやホームページでの周知と遠隔講義システムを採用しています。

6) 修了・修了後の状況

Iコース受講生(基礎2年次)67名は所定の履修項目を受講してコースを修了し、1年次82名は2年次へ進級しました。Iコース受講生(実践1年間)5名は所定の履修項目を受講してコースを修了しました。IIコース受講生12名、IIIコース受講生3名は、所定の履修項目を受講してコースを修了しました。修了者には鳥取大学の修了証が授与されました。

IIIコースの修了生については、当院の指定する授業項目を履修しましたので、鳥取大学医学部附属病院長の認定によるT-HOC在宅支援ナースの称号を付与しました。その印として、各自にT-HOC在宅支援ナースバッジが贈呈されました。

7) 看看連携・多職種連携によるプログラム運営

本事業の目的は、地域で働く訪問看護師を増やし、そのスキル強化を図ることです。そのためには、事業主体の大学病院だけが教育を提供する構図ではなく、大学病院と医学部保健学科が中心となり、地域における看看連携と多職種連携を促進して、地域の看護職(訪問看護ステーション看護師、地域関連病院看護師)、医療介護施設、看護協会、医師会、自治体等が協働して、地域で働く訪問看護師を育てるシステム造りが必須と考えられます(図参照)。

本事業の開始に先立って、すでに本院は、大学病院を含む8つの地域病院間の緊密な看看連携を基盤にした先進的人事交流システムを展開していて、大学病院出身の看護管理者や看護スタッフについて病院間の相互人事交流を行ってきました。そしてこの交流は人事面だけでなく、職域を超えて有機的に広がる教育研修体制の構築が可能なレベルにまで達しています。看看連携を中心としたこのような当院の機動力があったからこそ、本事業が滞りなく遂行されているものと考えられます。

8) 病院から訪問看護ステーションへの出向プログラム

平成30年度から、Iコース(実践1年間)の修了者をはじめ、本プログラム修了生等を対象にして、病院から訪問看護ステーションへの出向プログラムを構築しました。今年度も病院看護師3名が訪問看護ステーションへ1年間出向し、訪問看護のOJT(On-the-Job Training)として就業しました。

本事業では一定期間、訪問看護ステーションに出向するなどの人事交流を進めることで、病院と訪問看護ステーション相互のスキルアップと意識改革に繋がること期待されます。本事業による訪問看護師育成は、病院と訪問看護ステーションを併せた職域で始まることとなりますので、在宅医療推進のための看護師育成は新しい段階を迎えたものと思われれます。

9) プログラムの深化と広報活動

受講生による評価や学内外者からの助言に基づいて、次年度プログラム内容のブラッシュアップを行いました。

広報活動では、本事業の情報発信としてホームページの更新を行いました。また、鳥取県訪問看護ステーション連絡協議会のご協力によりセミナー等の広報も行うことができました。



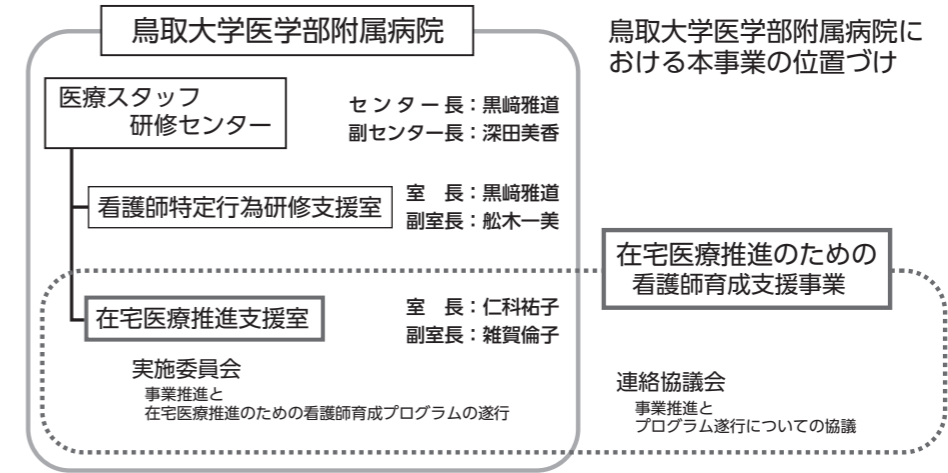
在宅医療推進のための看護師育成支援事業の概念図

事業概要

1 運営組織

1-1 鳥取大学医学部附属病院における事業の位置づけ

本事業の遂行は、鳥取大学医学部附属病院医療スタッフ研修センターの在宅医療推進支援室が担当します。事業の遂行については学内外有識者で組織する連絡協議会による協議を参考にして実施委員会の決定に基づき実施します。



1-2 連絡協議会

■「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」連絡協議会 会議開催状況

・第1回 令和7年8月26日～9月26日 文書送付による会議開催

【出席者】 仁科委員・武中委員・黒崎委員・深田委員・森田委員・山崎委員・松本委員・藤瀬委員、藤井委員・前田委員・塚田委員・住田委員・徳永委員・岡田委員・大東委員・西山委員・小椋委員・近藤委員・長谷川委員・南前委員・雑賀委員・足立委員

- 【会議内容】 ○令和7年度委員確認
○令和7年度事業実施状況報告
・コース別受講者数、看護師経験年数、勤務場所
・受講者数の年度推移
・プログラムの実施状況
・実習状況
・訪問看護ステーションへの出向状況
○「第16回T-HOC特別セミナー」開催案内
○行政、連携団体、連携施設からのご意見

・第2回 令和8年3月9日 対面・webによる会議開催

【出席者】 仁科委員・深田委員・森田委員・山崎委員・松本委員・藤井委員・前田委員・小椋委員・近藤委員・長谷川委員・大倉委員・雑賀委員

- 【会議内容】 ○令和7年度受講生の修了・進級の報告
○令和7年度出向プログラム修了者報告
○令和7年度事業実施状況報告
○令和8年度の事業計画について
IIIコース追加コースの開始、出向プログラム変更等
○運営要項の一部改正について
○行政、連携団体、連携施設からのご意見

■在宅医療推進のための看護師育成支援事業 連絡協議会 委員

仁科 祐子	鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室	室長	1号委員
武中 篤	鳥取大学医学部附属病院	病院長	2号委員
黒崎 雅道	鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター	センター長	3号委員
深田 美香	鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター	副センター長	4号委員
森田 理恵	鳥取大学医学部附属病院	看護部長	5号委員
山崎 正人	鳥取大学 米子地区事務部	部長	6号委員
松本美智子	公益社団法人 鳥取県看護協会	会長	7号委員
藤瀬 雅史	公益社団法人 鳥取県西部医師会	会長	8号委員
藤井 秀樹	鳥取県西部総合事務所 米子保健所	所長	9号委員
前田 俊和	鳥取県 福祉保健部 健康医療局 医療政策課 医療人材確保室	室長	9号委員

塚田 容子	米子市福祉保健部	部長	9号委員
住田 秀樹	日野町健康福祉課	課長	9号委員
徳永 忍	国民健康保険 智頭病院	看護部長	10号委員
岡田 義子	社会医療法人 仁厚会 藤井政雄記念病院	看護部長	10号委員
大東美佐子	医療法人・社会福祉法人 真誠会	看護部長	10号委員
西山あゆみ	鳥取県立中央病院	看護局長	11号委員
小椋美保子	鳥取県立厚生病院	看護局長	11号委員
近藤 仁子	日野病院組合 日野病院	看護局長	11号委員
長谷川洋子	鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室	室員	12号委員
大倉 広子	鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室	室員	12号委員
雑賀 倫子	鳥取大学医学部保健学科 地域・精神看護学講座	副室長	12号委員
足立 学	鳥取大学米子地区事務部 総務課	課長	12号委員

【陪席者】

足立 佳子	鳥取大学医学部附属病院 看護部 教育担当 副看護部長
依藤 裕子	鳥取大学医学部附属病院 看護部 教育支援室 看護師長
近藤 譲	鳥取大学米子地区事務部 総務課副課長
市川 ゆり	鳥取大学米子地区事務部 総務課法規・評価係長
角田ひろみ	在宅医療推進支援室 事務補佐員

1-3 実施委員会

■「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」実施委員会 会議開催状況

- ・第1回 令和7年5月23日
【出席者】 仁科委員・雑賀委員・深田委員・長谷川委員・南前委員・森田委員（書面による審議）・足立委員・依藤委員・足立学委員
○令和7年度在宅医療推進のための看護師育成プログラム受講生の認定について
- ・第2回 令和7年5月27日～5月29日（持ち回り）
【出席者】 仁科委員・雑賀委員・深田委員・長谷川委員・南前委員・森田委員・足立委員・依藤委員・足立学委員
【会議内容】 ○令和7年度在宅医療推進のための看護師育成プログラム受講生の認定について（辞退、追加申込）
- ・第3回 令和8年2月24日
【出席者】 仁科委員・雑賀委員・長谷川委員・大倉委員・森田委員・足立委員・依藤委員・足立学委員
【会議内容】 ○令和7年度在宅医療推進のための看護師育成プログラム実施状況の報告
○令和7年度受講生の修了・進級認定について
○要項の一部改正について

■在宅医療推進支援室 実施委員会 委員

仁科 祐子	医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 室長	1号委員
雑賀 倫子	医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 副室長（4号委員兼務）	2号委員
長谷川洋子	医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 特命助教	3号委員
南前 恵子	医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 看護師（上半期）	
大倉 広子	医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 看護師（下半期）	
雑賀 倫子	医学部保健学科 地域・精神看護学講座 講師	4号委員
森田 理恵	看護部長	5号委員
深田 美香	医療スタッフ研修センター 副センター長	6号委員
足立 佳子	看護部 教育担当 副看護部長	
依藤 裕子	看護部 教育支援室 看護師長	
足立 学	米子地区事務部 総務課長	

- 【陪席者】
- | | |
|-------|-----------------|
| 近藤 譲 | 米子地区事務部 総務課副課長 |
| 市川 ゆり | 総務課法規・評価係 係長 |
| 角田ひろみ | 在宅医療推進支援室 事務補佐員 |

1-4 在宅医療推進支援室会議（T-HOCミーティング）

■在宅医療推進支援室 T-HOCミーティング開催状況

- ・第1回 令和7年4月25日
【会議内容】 ・令和7年度開講式・オリエンテーションについて ・第1回実施委員会の開催について
- ・第2回 令和7年5月23日
【会議内容】 ・令和7年度予算事業計画書提出について ・第16回T-HOC特別セミナー開催案について
- ・第3回 令和7年6月24日
【会議内容】 ・令和7年度T-HOC開講式・オリエンテーション振り返り ・実践コース第1回集合研修、Ⅱ・Ⅲコース第1回集合研修報告

- ・第4回 令和7年7月25日
【会議内容】 ・公開講義1、2回目実施報告 ・令和7年度第1回連絡協議会開催について
- ・第5回 令和7年9月17日
【会議内容】 ・令和7年度出向者交流会について ・第16回T-HOC特別セミナーについて
- ・第6回 令和7年11月4日
【会議内容】 ・Iコース（2年次）第5回集合研修について ・第1回プログラム検討会について
- ・第7回 令和7年12月22日
【会議内容】 ・病院執行部会議「看護師出向プログラムの修正について」 ・IコースT-HOC担当責任者への研修実施方法についてアンケート結果報告 ・令和7年度公開講義実施報告
- ・第8回 令和8年1月26日
【会議内容】 ・令和7年度修了式・交流会内容・スケジュール（案） ・第2回連絡協議会開催日の決定 ・運営要項の一部改正について
- ・第9回 令和8年2月24日
【会議内容】 ・第6回T-HOC POCUSセミナー実施報告 ・令和7年度修了式・交流会の内容・スケジュール ・令和7年度第2回連絡協議会議題について

T-HOCミーティングメンバー

仁科 祐子	在宅医療推進支援室室長
雑賀 倫子	在宅医療推進支援室副室長
深田 美香	医療スタッフ研修センター副室長
長谷川洋子	在宅医療推進支援室員
南前 恵子	在宅医療推進支援室員（上半期）
大倉 広子	在宅医療推進支援室員（下半期）
足立 佳子	看護部 教育担当副看護部長
依藤 裕子	看護部 教育支援室 看護師長
山根 朋美	看護部 教育支援室 看護師
武田 春菜	看護部 教育支援室 看護師（下半期）
市川 ゆり	総務課法規・評価係長
角田ひろみ	在宅医療推進支援室 事務補佐員

2 運営場所

2-1 在宅医療推進支援室

平成27年4月に、鳥取大学医学部附属病院は、本事業の遂行のため、新たに医療スタッフ研修センター在宅医療推進支援室（74㎡）を整備しました。

3 運営内容

3-1 在宅医療推進のための看護師育成プログラム

3-2 出向プログラム

3-3 事業連携

3-4 広報活動、業績等

事業内容

1 在宅医療推進のための看護師育成プログラム

1-1 プログラム策定

T-HOCプログラム検討会 会議開催状況

■在宅医療推進のための看護師育成支援事業のプログラム検討会

・第1回 令和7年10月3日～9日(持ち回り)

【出席者】 仁科室長、雑賀副室長、深田副センター長、森田看護部長、足立副看護部長、依藤看護師長、長谷川室員、大倉室員

【陪席者】 市川係長、角田事務補佐員

【会議内容】 ・令和7年度 委員確認
・令和8年度T-HOCプログラムⅢコース内のコース追加

・第2回 令和7年12月22日

【出席者】 仁科副室長、足立副看護部長、依藤看護師長、長谷川室員、大倉室員

【陪席者】 武田教育支援室看護師、山根教育支援室看護師、市川係長、角田事務補佐員

【会議内容】 ・令和8年度 シラバス・実習要項・募集要項・年間スケジュールの検討
・令和8年度予算案

■在宅医療推進支援室 プログラム検討会 委員

氏名 役職

仁科 祐子 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 室長
雑賀 倫子 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 副室長
長谷川洋子 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 室員
大倉 広子 医療スタッフ研修センター 在宅医療推進支援室 室員
深田 美香 医療スタッフ研修センター 副センター長

森田 理恵 看護部長

足立 佳子 副看護部長

依藤 裕子 看護部 教育支援室 看護師長

【陪席者】

市川 ゆり 総務課法規・評価係長

角田ひろみ 在宅医療推進支援室 事務補佐員

1-2 プログラム連携

連携施設との連絡調整

在宅医療推進支援室では保健学科教員、附属病院看護部、医学部内の教職員、地域の看護職、医師会、看護協会、他大学、自治体等からの講師派遣や助言、訪問看護ステーション、訪問診療同行などの実習受け入れによりプログラムを運営している。

1-3 受講・履修・修了の状況

受講生の属性 (179名)

【所属先】 (名) 【所属先】 (名) 【所属先】 (名)

Iコース(基礎コース 1年次)			Iコース(2年次)			Iコース(実践コース)		
東部	鳥取県立中央病院	1	東部	鳥取県立中央病院	3	東部	鳥取県立中央病院	1
東部	尾崎病院	2	東部	尾崎病院	1	西部	鳥取大学医学部附属病院	2
東部	岩美病院	3	東部	岩美病院	3	西部	日南病院	2
中部	鳥取県立厚生病院	4	中部	鳥取県立厚生病院	4	合計		5
西部	鳥取大学医学部附属病院	65	西部	鳥取大学医学部附属病院	50			
西部	博愛病院	10	西部	米子医療センター	1			
西部	日野病院	2	西部	博愛病院	5			
合計		87	西部	日野病院	2			
			西部	日南病院	1			
			西部	ライブアシスト	1			
			合計		71			

【所属先】 (名) 【所属先】 (名)

IIコース			IIIコース		
東部	鳥取県立中央病院	1	西部	訪問看護ステーションかけはし	1
中部	鳥取県立厚生病院	1	西部	訪問看護ステーションネットケア	3
西部	鳥取大学医学部附属病院	9	合計		4
西部	山陰労災病院	1			
合計		12			

【令和7年度 受講生看護師経験年数】 (名)

看護師経験年数	Iコース(1年次)	Iコース(2年次)	実践コース	IIコース	IIIコース	合計
1年次	1					1
2年目	82					81
3年目	2	59	2	1		64
4年目	1	8	3			12
5年目		4				4
6～9年目	1			3	2	6
10～14年目				1	1	2
15～19年目				2		2
20～24年目				3	1	4
25～29年目						0
30年目以上				2		2
合計	87	71	5	12	4	179

【令和7年度 受講生勤務場所】 (名)

	Iコース(1年次)	Iコース(2年次)	実践コース	IIコース	IIIコース	合計
一般病棟	60	46	3	8	0	117
急性期病棟	21	19	2	3	0	45
回復期リハビリ病棟	0	0	0	0	0	0
地域包括ケア病棟	3	1	0	0	0	4
療養病棟	3	4	0	0	0	7
外来	0	0	0	0	0	0
医療福祉支援センター	0	0	0	1	0	1
感染制御部	0	0	0	0	0	0
看護部	0	0	0	0	0	0
訪問看護ステーション	0	0	0	0	4	4
障がい者施設	0	1	0	0	0	1
合計	87	71	5	12	4	179

令和7年度 各コース修了・進級状況

人数

コース	基礎1年次	基礎コース2年次に進級	人数
Iコース	基礎2年次	修了	67
	実践コース	修了	5
IIコース		修了	12
IIIコース		修了	3

T-HOC在宅支援ナースの認定

■在宅医療推進のための看護師育成プログラム

「T-HOC (Tottori-Home Oriented Care) 在宅支援ナース」の認定について

1. 趣旨

鳥取大学医学部附属病院在宅医療推進のための看護師育成支援事業「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」Ⅲ、訪問看護能力強化コースの修了生に対し鳥取大学医学部附属病院より地域の訪問看護の質向上を果たす役割の看護師として認定する。



2. 期待する効果

地域の訪問看護の質向上

- ・地域のリーダーシップ役割
- ・訪問看護師の育成役割

Ⅲコースが定める必須講義を含めた30講義以上の受講、セミナー受講、所定の実習を修了することにより、必要な知識の習得、不足した能力の補強を行い、地域の訪問看護のリーダー役割、かつ後輩の人材育成を担うに相応しい看護師である。

3. 名称

「T-HOC (Tottori-Home Oriented Care) 在宅支援ナース」

4. 認定の基準

以下の①②を満たす者を認定とする

- ① Ⅲ.訪問看護能力強化コースを修了した者
- ② Ⅲ.訪問看護能力強化コースの講義「Ⅰ在宅医療の社会システム」「Ⅱ在宅医療に必要な病態学」「Ⅲ訪問看護に必要な技能」の各分野から1講義以上を受講した者

5. T-HOC在宅支援ナース認定者

平成29年度 7名

所 属	氏 名
国立病院機構 鳥取医療センター	谷 口 悦 子
博愛病院	金 尾 正 美
鳥取大学医学部附属病院	大 塚 希
NPO法人ライセンスワーク 私の看護師さん	水 田 宏 子
デイサービスエレファント	古 都 有 希
錦海リハビリテーション病院	大 坂 保 子
訪問看護ステーションふる里	前 田 静 香

平成30年度 9名

所 属	氏 名
訪問看護ステーションなんぶ幸朋苑	廣 岩 由美子
すまいる訪問看護リハビリステーション	豊 田 郁 恵
訪問看護ステーション えん	継 山 ゆかり
訪問看護ステーション ゆりはま	山 元 佐知子
訪問看護ステーション ラビット	湖 山 英 恵
鳥取大学医学部附属病院	村 上 喜 恵
鳥取県看護協会 訪問看護ステーション	伯 田 直 江
こころね訪問看護ステーション観音寺新町	大 場 明 奈
	中 村 加 奈

令和元年度 7名

所 属	氏 名
医療法人 なかむら医院	横 田 美 子
医療法人真誠会 訪問看護ステーションネットケア	佐 藤 真 里
訪問看護ステーション ゆりはま	山 脇 美 里
すまいる訪問看護リハビリステーション	大家谷 裕美子
鳥取大学医学部附属病院	塩 明 日 花
鳥取大学医学部附属病院	白 根 あゆみ
独立行政法人 国立病院機構 米子医療センター	景 井 美 沙

令和2年度 4名

所 属	氏 名
安来市地域包括支援センター	池 上 智 子
安来市医師会訪問看護ステーション	佐 波 由 佳
すまいる訪問看護リハビリステーション	新 宮 かおり
日南町国民健康保険 日南病院	西 田 翔

令和3年度 7名

所 属	氏 名
鳥取県立厚生病院	牧 野 由 香
鳥取大学医学部附属病院	浅野目 佳 余
鳥取大学医学部附属病院	小笠原 愛由美
医療法人十字会 訪問看護ステーションのじま	酒 本 さおり
すまいる訪問看護リハビリステーション	米 村 唯
訪問看護リハビリステーション ラビット	加 納 久 美
米子市社会福祉協議会 よどえ通所介護事業所	村 上 幸 奈

令和4年度 8名

所 属	氏 名
ホームベースドケア訪問看護ステーション	中 島 容 子
江尾診療所	遠 藤 綾
鳥取大学医学部附属病院	足 立 佳 子
訪問看護ステーション ふる里	足 立 真由美
鳥取県看護協会訪問看護ステーション	山 内 華 音
訪問看護ステーションゆりはま	潮 裕 美
訪問看護ステーションネットケア	角 田 直 子
鳥取大学医学部附属病院	赤 堀 夏奈子

令和5年度 6名

所 属	氏 名
訪問看護ステーションネットケア	竹 内 乃 亮
訪問看護ステーションネットケア	山 口 千 里
訪問看護ステーションネットケア	大 門 あ み
江尾診療所	富 田 愛 佳
鳥取県立厚生病院	太 田 憲 子
中部療育園	新 田 美 保

令和6年度 5名

所 属	氏 名
訪問看護ステーションネットケア	菅 原 静 香
訪問看護ステーションネットケア	河 瀬 仁 美
訪問看護ステーションネットケア	坂 井 彩 華
弓浜ゆうとびあ	窪 田 亜由子
鳥取大学医学部附属病院	永 田 あゆみ

令和7年度 3名

所 属	氏 名
訪問看護ステーションネットケア	池 田 章 幸
訪問看護ステーションネットケア	森 本 淳 也
訪問看護ステーションかけはし	西 村 亜 季

1-4 プログラムの実施内容

I コース：在宅生活志向をもつ看護師育成コース（基礎2年間）

基礎コース 1年次

研修項目 1/8 個人課題①

【ね ら い】 受講生自身が受講動機を意識する

【HOCノート課題】 ・このコースを受けてどんな看護師になりたいか？未来の私とは？

【受講生記入内容】（一部抜粋）

- ・退院する患者さんに対して「自宅に帰る」という選択肢を安心して提示でき、在宅で療養したいと思う患者さんの「最期までその人らしく生きる」を実現し、支えられるような看護師を目指したい。
- ・退院後の患者やその家族の生活を見据え、患者、家族に寄り添った看護が提供できる看護師になりたい。

研修項目 2/8 第1回集合研修

【ね ら い】 新人看護師が在宅志向の必要性を知る

【日 程】 A) 令和7年7月3日(木) 13:00~15:00 B) 令和7年7月4日(金) 13:00~15:00

【場 所】 鳥取大学医学部 記念講堂

【参 加 者】 A) 40名(欠席2名) 看護学生6名 B) 39名(欠席4名)

【研修内容】 1. 講義「患者を生活の場に戻すために必要な視点」(オンデマンド)
 講師：鳥取大学医学部附属病院副看護部長 木村公恵

2. グループ討議「事例より看護連絡票の活用方法について考える」(対面)

〈講義内容〉

高齢化が進む鳥取県・米子市の現状を踏まえ、行政・社会保障・経済への影響が整理され、患者が地域で暮らし続けるための地域包括ケアシステムや療養環境支援の重要性が説明された。退院後の生活支援では、患者・家族・医療者の情報共有が不可欠であり、看護連絡票は「看護のバトン」として受け手を意識した記述が求められると強調された。

〈グループ討議〉

架空の事例の看護連絡票を基にグループ討議を実施した。基本項目が記入されているか、不足している情報はないか、この患者さんに継続している問題とそれに対する支援、退院後に生活していけるのか、そのための支援などについて討議し発表した。

【アンケート回答】（一部抜粋）

- ・看護連絡票で不足していた情報を理解できたので、今後記載する際には、受け取る側の立場で考えたいと思った。
- ・患者さんの意向をきちんと確認して、患者、家族とも納得して療養場所を決定できるよう支援していきたいと思った。
- ・看護連絡票の書き方について悩んでいたため、参考にしたい。

研修項目 3/8 個人課題②

【ね ら い】 受講生自身が「今年度の私の目標」を明確にする

【HOCノート課題】 ・今年度の私の目標

- ・目標を達成するための具体的な行動目標

【受講生記入内容】（一部抜粋）

(今年度の私の目標)

- ・療養病棟での経験を活かし、在宅療養への移行支援に関する知識と技術を深め、患者の「自分らしい暮らし」を支える看護実践を養う。
- ・①患者とその家族の入院前・後の生活を意識して関わる事ができること、②患者が地域や在宅療養へ移行していく為に必要な看護や連携する他職種について理解できること。

研修項目 4/8 個人課題③

【ね ら い】 所属施設の退院システムについて知る

【HOCノート課題】 ・自分の病院にある退院支援に関わる部署

- ・退院支援内容（退院支援に関わる部署の支援内容）
- ・あなたの部署と退院支援に関わる部署の連携について、図示もしくは例を用いて説明する

【受講生記入内容】

- ・所属施設の退院支援システムについて、各自が学習し内容を整理した。

研修項目 5/8 第2回集合研修

【ね ら い】 訪問看護ステーションへ出向した看護師から、在宅生活志向への広がりを持った退院支援について学ぶ

【日 程】 A) 令和7年10月15日(水) 13:00~15:00 B) 令和7年10月22日(水) 13:00~15:00

【場 所】 鳥取大学医学部 記念講堂

【参 加 者】 A) 39名(欠席1名) B) 43名(欠席2名)

【研修内容】 1. 講義「訪問看護ステーションの出向から見た病院看護師の退院支援」(オンデマンド)

講師：鳥取大学医学部附属病院 足立洋子 谷口真弓

2. グループ討議「事例を通して退院支援に向けて自分はどう動けばいいか考えよう」

〈講義内容〉

訪問看護師の役割や家族形態の多様化への対応、そして退院前カンファレンスの重要性について、また退院支援を通して得られる看護師としてのやりがいや、退院が難しいケースでも患者・家族の意向を尊重し、チームで検討する姿勢の大切さを話された。

〈グループ討議〉

事例をもとに、退院後に必要な医療管理や介護を整理し、そこから必要なサービスを検討する形で議論が進められた。

発表の後には、講師から実際の対応が示され、現実的なケースを段階的に考える学びにつながった。

参加者からは、具体的なケアや支援をイメージしやすく、意見交換によって理解が深まったという声が多く聞かれた。

【アンケート回答】(一部抜粋)

- ・担当看護師として具体的な支援を考える上で活用できそうだと感じた。
- ・退院後の生活について少し考えやすくなった。
- ・自分にはなかった視点、対応について学ぶことができ今後の退院支援に活用したい。

研修項目 6/8 個人課題④

【ねらい】 実際に行った退院支援について振り返る

【HOCノート課題】・受け持ち患者に実践した退院支援を1事例取りあげる

- ・退院に向けての課題と実際に行った退院支援の内容をまとめた

【受講生記入内容】(一部抜粋)

- ・患者の身体的・精神的安定を図りながら自宅退院にむけ、生活の再構築の支援を行った。(中略)患者と家族の不安に寄り添いながら退院後も安全に療養生活を継続できるように支援したことが病棟看護師の大きな役割であった。
- ・入院前は自力で食事摂取出来ていたという情報から、STや他のスタッフとも協働し少しずつ自分で摂取できるよう術後早期から退院後の生活を見据えた介入をすることができた。

研修項目 7/8 第3回集合研修

【ねらい】 実際に訪問看護師として活動している若手訪問看護師、新卒訪問看護師の報告や意見交換により退院支援に必要な視点を理解できる

【日程】 A) 令和8年1月9日(金) 13:00~15:00 B) 令和8年1月19日(月) 13:00~15:00

【場所】 鳥取大学医学部附属病院会議室3・4

【参加者】 A) 41名(欠席2名) B) 42名(欠席3名)

【研修内容】 1. 講義(オンデマンド)

「訪問看護の実際」 講師：訪問看護ステーション友喜 松本彩花

「Well beingを支える看護～繋がる看護の輪～」 講師：訪問看護ステーションコミケ 安達弓恵

2. グループ討議「事例から社会資源を考える」

〈講義内容〉

松本講師からは、新卒で訪問看護に入り5年目となり、利用者の生活に寄り添う個別的な看護を実践しながら成長を重ね、今後は訪問看護を若手が選びやすい環境づくりにも貢献したいと考えているとの内容で、安達講師からは雲南市で訪問看護と地域づくりに取り組み、利用者の望む生活を大切にしながら、退院後の暮らしを支える看護と連携の重要性を伝える内容だった。

〈グループ討議〉

事例をもとに退院後の課題、退院前にできる支援、利用可能な介護保険サービス、インフォーマルサービスについて検討した。講師からは、退院後の生活を見据えた支援、社会資源の理解、生活背景を踏まえたコミュニケーション、在宅への適切な情報共有の重要性が示された。

【アンケート回答】(一部抜粋)

- ・退院を見据えた看護の必要性がわかった。
- ・継続看護や退院支援を行う上で患者の思いを尊重した看護を行おうと感じた。
- ・これまでインフォーマルなサービスについてあまり考えたことがなく、1人では思いつかないこともあったため、今後の実践に活かすことができると思う。

研修項目 8/8 個人課題⑤

【ねらい】 2年目に向けての課題を明確にする

【HOCノート課題】・2年目に向けての目標

- ・達成するための具体的な行動目標

【受講生記入内容】(一部抜粋)

〈2年目に向けての目標〉

- ・患者の価値観や生活歴を踏まえ、その人らしい療養生活を支える意思決定支援を実践できる看護師を目指す。
- ・1年次で広げた視野を生かし、2年次は自ら意見を発信しつつ多様な考えを取り入れ、担当患者に必要な介入を常に考えて関わりたい。
- ・入院時から在宅生活を見据えた退院支援と地域連携を学び、それを自らの看護に生かせるようになる。

基礎コース 2年次

研修項目1/5 第4回集合研修

【ねらい】 在宅生活志向に必要な知識の確認ができる

【日程】 A) 令和7年6月20日(金) 13:00~15:00 B) 令和7年6月25日(水) 13:00~15:00

【場所】 鳥取大学医学部 記念講堂

【参加者】 A) 33名(欠席1名) B) 36名

【研修内容】 1. 講義「退院後の生活を見据えた看護活動と在宅療養に必要な資源～介護保険・医療保険の仕組み～」(オンデマンド)

講師：真誠会医療福祉連携センター センター長 小山雅美

2. グループ討議「事例を基にどのようなサービス・指導が必要かを考える」

〈講義内容〉

介護保険を取り巻く現状、介護保険制度と医療保険制度の使い分け、入退院調整やサービスなどについて講義。特別訪問看護指示書の活用や米子市長寿社会課の「あんしん介護保険」のパンフレットの説明もされた。

〈グループ討議〉

事例を基に、①入院中から退院後を見据えた看護②退院後の在宅療養に必要な支援について6グループで話し合った。最後に各グループが発表し、意見を共有した。

【アンケート回答】(一部抜粋)

- ・全員で意見を出してディスカッションできた。
- ・グループワークでの気づきから具体例を出して、より良い支援方法を探ることができた。
- ・制度や仕組みを知らないと、実際に使用したい人に伝えることができないので、もっと勉強したいと思った。

研修項目2/5 個人課題⑥⑦：受け持ち患者への退院支援インタビュー

【ねらい】 退院支援を行った患者から、退院後の生活を伺う事で支援の内容を再確認する

【HOCノート課題】・実際に行った退院支援と工夫した点

- ・退院してからの生活の様子(聴き取った内容)
- ・話を聴いて、自分の行った退院支援を振りかえる

【受講生記入内容】(一部抜粋)

- ・体重管理や服薬は継続できていたが、日常生活動作で息切れなどの不安が残っていた。このことから退院前に悪化兆候や活動量調整を家族も含めて十分に説明できず、日常生活を想定した支援が不足していたと感じた。退院前の具体的な支援不足を反省し、生活に寄り添った個別的看護の重要性を再認識した。
- ・急性期病棟退室までの短期目標に偏っていた前回の反省から、今回は家族と退院後の生活について話し合う時間を設けた。術前と大きく異なる状態への不安や社会資源の必要性を踏まえて介入し、一般病棟転棟後に再度家族の意向を確認したことで、患者や家族の考えは変化していくことを理解した。情報を固定せず、退院まで継続的に関わる重要性を学んだ。

研修項目3/5 第5回集合研修

【ねらい】 在宅生活志向による病院看護師と訪問看護師の連携を理解する

【日程】 A) 令和7年9月9日(火) 13:00~15:00 B) 令和7年9月18日(木) 13:00~15:00

【場所】 鳥取大学医学部附属病院会議室3・4

【参加者】 A) 31名 B) 36名(欠席1名)

【研修内容】 1. 講義「在宅生活志向による病院看護師と訪問看護師の連携」

講師：鳥取大学医学部附属病院 新生児集中ケア認定看護師 安達香奈

2. グループ討議「在宅療養を支援する担当看護師としての役割～多職種との連携を図って～」

ファシリテーター：鳥取大学医学部附属病院医療福祉支援センター 服部由香

〈講義内容〉

病院の新生児支援では、新生児とその家族を対象に、NICUの様子をわかりやすく伝えながら、家族が抱える状況的・発達の危機に配慮した支援を行う事が大切。鳥取大学病院では、入院中も家族としての喜びを感じられる環境づくりを重視し、退院後は在宅で医療的ケアができる体制整備や、日本看護協会の小児在宅移行支援パスを基に独自の支援パスを作成し、入院から在宅移行まで看護師間の連携が強化されていることなどを話された。

〈グループ討議〉

在宅移行支援パスを基に事例を検討し、家族の気持ちの想像、情報不足の整理、支援内容と多職種連携についてグループで話し合い発表した。

【アンケート回答】(一部抜粋)

- ・思いの傾聴や家でのケア手技獲得など成人の退院支援に重なる部分があった。
- ・家族支援の大切さをより感じる事ができた。
- ・新生児ならではの点もありましたが、成人にも通じる場所があったので、自部署の退院支援にも学んだことを活かしていきたい。
- ・応用できる場所をしていこうと思う。

研修項目4/5 外来受診時インタビュー後の意見交換会

【ね ら い】受け持ち患者への外来受診時インタビューを実施後、他の受講生と情報交換し、実施できている点と課題となることを明確にする

【日 時】A) 令和7年11月18日(火) 13:30~15:00 B) 令和7年11月21日(金) 13:30~15:00

【場 所】鳥取大学医学部記念講堂 (オンライン会場) 県立中央病院、尾崎病院

【参加者】A) 9名(欠席21名) B) 13名(欠席24名)

【アドバイザー】A) 岩美病院 前田真奈美、県立厚生病院 山根 香、日南病院 北垣麻規子
B) 県立中央病院 田中幸世、尾崎病院 林 幸希、米子医療センター 吉野真由美
博愛病院 中原恵美子、日野病院 小原佐智子、ライブアシスト 北村 泉

【研修内容】少人数(3~4名)のグループで、各自が担当した退院支援の事例を5分程度で発表し、意見交換を行った。受講生からは「話しやすい」「新たな視点が得られた」など前向きな感想が多く、有意義な学びの場となった。今後の課題としては、生活・家族背景への視点、積極的なコミュニケーション、多職種連携の重要性が挙げられた。

【アンケート回答】(一部抜粋)

- ・他病院での取り組み等がわかって良かった。
- ・今後は、患者の生活背景等も踏まえた退院支援をしていきたい。
- ・多職種が、どのようなものがあるかをもっと知りたいと思いました。

研修項目5/5 個人課題⑧：まとめ~このコースを通して~

【ね ら い】考え方の変化、実践していること、今後の課題を明確にする

【HOCノート課題】・2年間のこのコースを受けた感想(在宅生活思考に対する考え方の変化)
・このコースで学び実践していること
・今後の課題

【受講生記入欄】(一部抜粋)

〈2年間このコースを受けた感想〉

- ・事例検討や講義を通して、自分の知識不足や視点の偏りに気づき、特に退院支援や多職種連携の重要性、そして患者の生活を見据えたアセスメントの必要性を学んだ。学んだ視点を日々の看護に反映させていきたい。

〈実践していること〉

- ・病棟ではバイタル測定や症状観察に加え、退院後を見据えて患者さんの生活に沿った指導を行い、多職種と協働して在宅で安心して生活できるよう支援している。

〈今後の課題〉

- ・患者さんの気持ちをより引き出せるような関わり方を身につけることが課題である。患者の思いを丁寧に引き出し、主体的な治療や生活管理につながる関わり方を身につけていきたい。

I コース：在宅生活志向をもつ看護師育成コース(実践コース)

研修項目1/9 個人課題①今年度の目標

【ね ら い】受講生自身が目標を明確にする

【HOCプラスノート課題】・このコースへの思い~なぜ、参加しようと思ったのか?
・今年度の目標
・達成するための具体的な行動目標

【受講生記入内容】(一部抜粋)

〈このコースへの思い~なぜ、参加しようと思ったのか?〉

- ・病棟での経験から、早期支援の重要性や在宅生活を維持するための支援体制の必要性を強く感じ、在宅支援への関心が高まった。Iコースを受講したことを踏まえ、次のコースも受講したいと思った。
- ・入院中と地域で質の変わらない医療・看護を提供するためには在宅の知識が重要であり、病棟看護師も在宅生活を見据えた退院支援に関わる役割を担えると感じた。在宅現場での学びを病棟での支援や情報収集に活かしたい。

〈今年度の目標〉

- ・「在宅看護の基礎知識と技術の習得」「生活の場での看護観を深める」「多職種連携を理解する」「地域包括ケアの理解を深める」「学びを通して職場での必要な視点で患者さんを捉える」の5つの目標をあげて取り組みたい。
- ・患者、家族の生活を大切にして退院支援を行う。

〈達成するための具体的な行動目標〉

- ・在宅看護に必要な制度や医療・介護連携、多職種連携、訪問看護の実際を学び、安全で安心な在宅ケアを提供するための知識やスキル習得を目指す。訪問看護や訪問診療の同行を通して必要な介入を実際に学び、病院とは異なる在宅ならではのアセスメントやスキルについて理解を深めたい。

研修項目2/9 第1回集合研修

【ね ら い】訪問看護師の役割を知る事で、生活を中心とした看護の視点を明確にする

【日 程】令和7年6月12日(木) 10:50~12:20

【場 所】鳥取大学医学部記念講堂

【参加者】5名

【研修内容】講義「訪問看護師の役割・機能・特性」
講師：すまいる訪問看護リハビリステーション 坪倉真由

〈講義内容〉

訪問看護制度の歴史や社会的背景、訪問看護の定義・利用方法・費用・役割などが説明され、講師自身の思いを交えながら訪問看護の実際が語られた。訪問看護師の1日の流れや具体的な事例を通して、利用者・家族との関わり、直面した困難とその解決過程が紹介され、受講生にとって有益な内容となった。終末期ケアについても社会状況の変化を踏まえ、看取りの実践が述べられ、「生活の中に存在する訪問看護師」として利用者家族の生活を大切にする姿勢が強調された。

【HOCプラスノート】(一部抜粋)

〈講義で印象に残ったこと〉

- ・話を聞くだけでもその方の精神安定剤という話を聞き、病棟でも言葉や表情に丁寧に寄り添う大切さを感じた。また、在宅療養の主役は利用者と家族であり、深い関係を築きながら関われる訪問看護に魅力を感じた。

〈あなたの考え~講義を通して~〉

- ・訪問看護は医療行為だけでなく、利用者の生活に寄り添い、心理・社会面まで支える役割が重要だと感じた。講義を通して「生活を中心とした看護」の具体像が深まり、病気ではなく“人”を看るという看護の本質と、全人的な視点の大切さを再認識した。

研修項目3/9 第2回集合研修(第16回特別セミナー)(P29参照)

【ね ら い】多職種との対話を通して地域における医療従事者の専門性や医療・看護の現状、課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す

【日 程】令和7年9月28日(日) 10:00~15:00

【場 所】鳥取県立厚生病院 大会議室

【参加者】4名(1名欠席)

【HOCプラスノート】(一部抜粋)

〈印象に残ったこと〉

- ・Well-beingは「身体的・精神的・社会的関係性」の3つが統合された状態として捉える重要性が強調され、特にコミュニティとのつながりが大きな要素であると学んだ。医療者は多様な人と関わるため、その関係性の質が心理的安全性や満足感に影響することを実感した。また、ストレスに晒され続けるのではなく、意図的な休息や回復(リカバリー)がWell-being維持に不可欠である点も理解できた。さらに、長時間労働や交代制、休暇取得の困難さが精神的健康を損なうリスクを高めるという研究データが示され、医療現場の現状と重ねて自身を振り返る機会となった。

研修項目4/9 退院支援実習

【ね ら い】退院前カンファレンスの参加、自宅訪問等を通じて患者の生活を理解し、より具体的な退院支援の視点をもつ

【実施期間】令和7年7月~12月

【実施内容】

- ・退院支援が必要な患者を1人選び、その患者に対して退院前カンファレンスへの参加や、退院前後の自宅訪問を含む支援を行う。そのうえで、自分が実施した退院支援を振り返る。

【HOCプラスノート課題】

- ・①あなたが患者さんに対して行った退院支援
- ・②退院後訪問で退院後の生活の様子を聞く
- ・①②を踏まえ、より具体的な退院支援について考える

【HOCプラスノート】(一部抜粋)

- ・外傷で歩行や日常生活が困難なうえ、家屋の損壊で生活環境も整っていないため、自宅退院は難しいと判断した。病棟看護師としてリハビリ転院の必要性を多職種と共有し、生活状況や不安を把握してMSWと連携することが重要だった。身体・社会・心理面の課題を整理し、安全に療養を続けられる環境へつなぐことが看護師の退院支援であると考えた。

研修項目5/9 訪問看護ステーション実習(5日間)

【ね ら い】・家族を含めた利用者に対し専門的知識と個性性をふまえた支援の展開を知る
・訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる

【実施期間】令和7年7月~11月

【実施内容】

- ・1人ずつ5日間、訪問看護ステーションで実習を行った。最終日には、実習生・実習先の管理者またはスタッフ・支援室の担当者が集まり、カンファレンスを実施して実習の振り返りを行った。

【課題】・実習レポートを作成

研修項目6/9 地域包括支援センター実習

【ねらい】・地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際行っている地域住民への働きかけを知る
・家族を含めた利用者に対し、専門的知識と個別性をふまえた支援の展開を知る

【実施期間】令和7年7月～11月（1日間）

【実施内容】

・地域包括支援センターで指導者のもと、担当者会議への同席やモニタリング訪問の同行、地域の介護予防活動への参加などを行い、1日の実習を経験した。

研修項目7/9 訪問診療同行実習

【ねらい】在宅療養者の生活を支援する1つである訪問診療の実際を知る

【実施期間】令和7年8月～9月（1日間）

【実施内容】

・訪問診療に1日同行し、実際にどのように診療が行われているのかを学んだ。

研修項目8/9 実習後の意見交換会（Ⅲコース合同）

【ねらい】実習で学んだことを他の受講生と共有して学びを深めることにより、今後の看護実践に活かすことができる

【日程】令和7年12月11日（木）13：30～15：00

【場所】鳥取大学医学部アレスコ棟261講義室

【参加者】実践コース 3名

【研修内容】1. アドバイザー挨拶「訪問看護師として大切にしていること」

アドバイザー：倉本純子（ぱぷりか訪問看護ステーション）

2. 実習報告

3. 意見交換

【HOCプラスノート】〈あなたの考え～講義とグループワークを通して～〉（一部抜粋）

・病院では治療を中心に多職種で支えるが、在宅や地域では生活まで視野を広げて関わる必要があると学んだ。病院と在宅では看護師の役割が異なるため、切れ目のない看護を提供できるよう、今後も在宅看護の学びを深めて支援の幅を広げていきたい。
・病棟スタッフが在宅での生活を具体的にイメージしながら指導することももちろんだが、さらにその内容や反応を在宅スタッフへ共有することが大切だと学んだ。また、訪問時の会話は本人だけでなく家族の息抜きにもなり、心配事や愚痴を聞くことが家族の負担軽減につながることを理解した。

研修項目9/9 第3回集合研修（Ⅲコース合同）

【ねらい】これまでの学びを今後の看護活動にどのように反映するか明確にする

【日程】令和8年2月3日（火）13：30～15：30

【場所】鳥取大学医学部アレスコ棟4階 416講義室

【参加者】5名

【研修内容】講義「在宅生活志向の実践に向けて」

講師：ウィル訪問看護ステーション 岩本大希

〈講義内容〉

事業所の理念と年間約300名の訪問実績、高い満足度評価が紹介された。在宅医療の重要性や看護の役割、支援的アプローチ、家族の捉え方、ACPの考え方について講義が行われ、患者の生活を中心にした在宅志向の看護と、「守り」と「攻め」のバランスを取ったケアの重要性を話された。

【HOCプラスノート】〈あなたの考え～講義とグループワークを通して～〉（一部抜粋）

・家に帰ることが必ずしも幸せとは限らないと気づいた。一方で、小児や成人、疾患や障がいに関わらず「帰りたい」と思ったときに帰れる環境を整えることが大切だと感じた。病気が障がいを弱さとせず、その人ができることや望むことを一緒に見つけ、その人らしい健康を支えていきたい。
・血縁に限らず、本人との関係性によって支える人は多様だと感じた。看護師や医療者は、本人とその周囲のサポートメンバーに合わせて、関わり方や支援方法を工夫することが大切だと思った。

Ⅱコース：在宅医療・看護体験コース

研修項目1/7 第1回集合研修

【ねらい】・訪問看護師の役割や実際の業務について学ぶ

・介護保険サービス利用に至る過程や、在宅医療体制の中での訪問看護の役割を学ぶ

【日程】令和7年6月12日（木）10：50～15：00

【場所】鳥取大学医学部記念講堂

【参加者】10名（欠席2名）

【研修内容】1. 講義「訪問看護師の役割・機能・特性」10：50～12：20（実践コース・Ⅱコース合同）

講師：すまいる訪問看護リハビリステーション 坪倉真由

2. 講義「医療保険・介護保険の仕組み」13：30～15：00

講師：北米町福祉課地域包括支援センター 池田伸夫

〈講義内容〉

1.（実践コース 第1回集合研修P17参照）

2. 鳥取県の高齢化の現状と将来予測、介護保険制度の仕組み、ケアプラン作成の流れや利用できるサービス、地域包括支援センターの役割、さらに北米町の具体的な取り組みが動画を交えて紹介された。また、中部圏域での連携や自立支援型マネジメントについても説明があった。受講生からは「分かりやすく理解しやすかった」という声が多かった一方、病院勤務では介護保険に関わる機会が少ないため知識が乏しく、苦手意識から難しく感じたという意見もあった。

【アンケート回答】（一部抜粋）

・高齢化社会の課題は地域だけでは解決が難しいと感じつつも、現場ではできる限りの取り組みが行われている。その姿を見て、病院としてもより深く関わる方法を模索すべきだと考えるきっかけになった。
・どの内容も知りたかった事ばかりでとても興味、関心がもてるものでした。
・介護保険の内容が理解でき、退院支援で利用可能なサービスを提案できるようになると思う。

研修項目2/7 第2回集合研修

【ねらい】多職種連携の中で見える地域での看護師の役割を学ぶ

【日程】令和7年8月6日（水）13：30～15：30

【場所】鳥取大学医学部アレスコ棟261講義室

【参加者】12名（Ⅱコース）6名（保健学科学生）

【研修内容】1. 講義「安心して在宅で暮らすために～在宅看護の力～」

講師：緩音訪問看護ステーション管理者 瀬尾勇仁

2. グループ討議「地域を見据えた退院支援を進めるために今実践すること」

〈講義内容〉

「どうして空は青いのか」映画で、講師自身が撮影に携わった経験をはなされた。また、在宅医療における多職種連携の事例や独居高齢者への療養支援事例を取り上げ、在宅療養を見据えた看護の継続性の重要性について講義。さらに、ケアシステムの担い手として看護師に求められる実践能力と役割について講義された。

〈グループ討議〉

4グループで「地域を見据えた退院支援をするために今実践すること」「実践するための自施設の課題」について活発な意見交換がされた。最後にALS患者の意思決定支援の事例が本人・家族の揺れ動く心理に訪問看護師が丁寧に寄り添っていく様子を感動的に描かれたスライドショーが紹介された。

【アンケート回答】（一部抜粋）

・家族や本人がどのように暮らしたいかが、在宅ならではの形で叶えられている姿をみてすごいなと思いました。
・事例から地域を見据えた退院支援のために入院時より自分がどのようなかわりをしていかないといけないか学ぶことができた。
・最後の事例では、自分の看護観を改めて考えさせられる機会となり、どんな看護師でありたいか改めて考えさせられました。

研修項目3/7 第16回特別セミナー（P29参照）

【ねらい】多職種との対話を通して地域における医療従事者の専門性や医療・看護の現状、課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す

【日程】令和7年9月28日（日）10：00～15：00

【場所】鳥取県立厚生病院 大会議室

【参加者】10名（欠席2名）

研修項目4/7 第3回集合研修（Ⅰコース1年次合同）

【ねらい】訪問看護ステーションへ出向した看護師から、在宅生活志向への広がりを持った退院支援について学ぶ

【日程】A) 令和7年10月15日（水）13：00～15：00 B) 令和7年10月22日（水）13：00～15：00

【参加者】10名（欠席2名）

【研修内容】1. 講義「訪問看護ステーションの出向から見えた病院看護師の退院支援」（オンデマンド）

講師：鳥取大学医学部附属病院 足立洋子 谷口真弓

2. グループ討議「事例を通して退院支援に向けて自分はどう動けばいいか考えよう」

〈講義内容〉（Ⅰコース1年次 第2回集合研修P14参照）

〈グループ討議〉

事例をもとに、退院後に必要な医療管理や介護を整理し、そこから必要なサービスを検討する形で議論が進められた。

発表の後には、講師から実際の対応が示され、現実的なケースを段階的に考える学びにつながった。

受講生からは、実際の事例に近い内容を具体的に検討でき、参加者同士で多様な意見を共有したことで、自分では得られない知識や多角的な視点を得ることができたとの意見が多くみられた。

【アンケート回答】（一部抜粋）

・事例や普段感じている看護師のジレンマ、地域での体験で自分たちがこれからできることがもっとある可能性を感じました。
・担当看護師だけでなく退院支援看護師と協力し退院後の生活ができるように考え行動したい。
・在宅療養支援について、看護師の可能性を感じて興味が持てました。

研修項目5/7 退院後家庭訪問実習

【ねらい】・入院中に退院支援を行った患者に対して退院後訪問を行い、実際の在宅療養生活を理解するとともに、自己の看護実践を振り返る
・今後の施設内での看護に必要なことは何かを明確にし、より専門的に個別性をふまえて退院に向けての支援を計画できる能力を養う

【実施期間】 令和7年7月～11月

【実施内容】

・退院支援を行った事例の中から、在宅療養者の了承を得て家庭訪問を行うなどして、実践した看護を振り返り、レポートを作成。

研修項目6/7 訪問看護ステーション実習

【ねらい】・家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性をふまえた支援の展開を知る

・訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる

【実施期間】 令和7年7月～12月（3～5日間）

【実施内容】

・受講生は3～5日間、訪問看護ステーションで実習を行った。

・最終日には、実習生・実習先の管理者またはスタッフ・T-HOC支援室担当者が参加し、カンファレンスを実施して実習の振り返りを行った。

・実習レポートを作成。

研修項目7/7 実習後の意見交換会

【ねらい】 実習で受講生が学んだことを、他の実習先で学んだ受講生と情報交換をし、学びを深める

【日程】 令和7年12月15日（月）13：30～15：30

【場所】 鳥取大学医学部アレスコ棟6階261講義室

【参加者】 9名（欠席3名）

【研修内容】 1. アドバイザー挨拶「訪問看護師として大切にしていること」
アドバイザー：すまいる訪問看護リハビリステーション 坪倉真由
2. 実習報告
3. 意見交換

【アンケート回答】（一部抜粋）

・実習での学びを、患者さんへのアセスメントに活かそう。

・連携についての学びを今後に活かしていきたいと思いました。

・このコースを通して、現在の勤務と在宅で関わる事の違い、難しさはもちろん、やりがいや楽しさも学ぶことができた。

0104	8月5日(火) 14:40-16:10	在宅における診療報酬	訪問看護ステーション 博愛 石橋佐智子	3	1	・訪問看護をしてまだ半年なので、加算や制度のことが知りたいながらも分からない部分だったので今日学ぶことができて良かったです。ありがとうございます。 ・聞かれた質問に答えられなかったり、自分の事業所のことも理解せずにやっているなどと思う部分もあったので加算について仕事ももっと意識していこうと思いました。 ・加算が曖昧のまま訪問していたので少しずつ学びながら覚えていきたいと思います。
0105	8月5日(火) 13:00-14:30	地域医療と多職種連携	大山診療所 鳥取大学医学部 地域医療学講座 講師 井上 和興	3	1	・診療所、訪問診療をされている先生のお話を聞く事ができ、訪問看護をしていく上で参考になりました。 ・在宅診療をしておられる先生からの話を聞く機会はなかなかないので、興味深い内容でした。 ・医師目線での利用者・家族との関わり方や、訪問看護師との関り、求めていることが聞けて良かったです。
0106	R8.2月3日(火) 13:30-15:30	在宅生活志向の実践に向けて (オンライン講義)	ウィル訪問看護 ステーション 岩本 大樹	1	1	・病院看護師と訪問看護師では、家族の定義や捉え方が異なることが興味深いと感じた。また、同じ訪問看護師として、サテライトを広げながら広い地域に質の高い看護を提供することは非常に大変だろうと実感した。だからこそ、教育体制やラダーの仕組みが重要であるという話を聞き、納得することができた。

2. 在宅医療病態論

0201	10月30日(木) 14:40-16:10	在宅医と訪問看護師との協働	在宅ケアクリニック 院長 佐々木修治	3	1	・様々な事例を通し、共感できる部分や新しい発見もあり、良い意見交換ができたと思います。ありがとうございます。 ・上手く介入できた事例を紹介してもらえたので、今後似たような事例に当たった場合など参考にできます。 ・様々な事例を知りました。今後同じような場面にあたった際の対応の参考にしていきたいと思います。
0202	10月30日(木) 13:00-14:30	在宅医療における整形外科的疾患（骨粗しょう症など）	鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部 准教授 尾崎 まり	3	1	・在宅では転倒はよくあるので、今回学ぶことができて良かった。大腿骨骨折では早い対応が良いとのことで、改めて搬送判断が重要だと感じた。 ・椎体骨折の高齢者は多いですが、椎体骨折については知らなかった内容が多く勉強になりました。 ・在宅で転倒、転落し疼痛の訴えが聞かれることはよくあるので、診断、早期治療のために今回この学びを活かしていきたいと思う。骨折等について学ぶことができた。
0203	11月12日(水) 10:40-12:10	小児の在宅医療について	訪問看護ステーション ゆりはま 平田すが子	3		・小児の訪問看護における看取り支援について学ぶことができた。経験がないため、実践を考えるうえで有益な内容だった。また、小児の看取りに関する研修があることを知り、今後の学習に役立てたい。 ・事例を通して、多職種が連携しながら一人の小児を支援する体制を理解することができた。 ・自分自身の経験とも照らし合わせながら、今後の支援のあり方を考える機会となった。
0204	7月8日(火) 9:00-10:30 10:40-12:10	認知症をきたす疾患への理解 認知症予防のためにできること	鳥取大学医学部 認知症予防学講座 教授 浦上 克哉	4		・認知症は種類ごとに症状や対応が異なるため、正しい知識を持つ重要性を実感した。 ・レビー小体型認知症では薬剤による悪化の可能性があり、慎重な対応が必要と感じた。家族や周囲にも適切な助言ができるよう、改めて学び直したいと思った。 ・物盗られ妄想などで生活に支障が出る利用者への対応には専門的理解が不可欠だと感じた。 ・スタッフ間で情報共有し、個々に合ったケアを行える体制づくりが必要だと感じた。早期発見や主治医・ケアマネとの連携を強め、進行予防に努める重要性を再認識した。
0205	7月31日(木) 10:40-12:10	神経系疾患 「訪問看護に必要な痙攣の診かた ～てんかん発作を中心に～」	鳥取大学医学部 名誉教授 吉岡 伸一	4		・てんかん発作の分類や小児と成人の特徴など詳しく知る事ができて良かった。 ・実際の動画が見れたのが良かった。 ・在宅ならではの指導方法もあったので良かった。 ・てんかんの種類や判別川に関しての部分はかなり複雑で難しいと感じたが、訪問看護の観点などからも対応の話をしてくださり、とてもためになりました。 ・てんかんの患者との関わりがほとんどない為、今回の講義で症状、対応について学ぶことができました。実際に現場で起こった場合は冷静に対応したいと思います。 ・学びいれんをおこす原因に認知症がある事を初めて知って勉強になりました。 ・仕事でも日常生活でもけいれんの正しい対応は必要なので、今日学んだこと、対応の仕方への理解を深めたいと思った。

3. 在宅における医療処置管理

0301	12月19日(金) 13:00-14:30 14:40-16:10	ポータブルエコーによる全身管理 (講義・演習)	鳥取大学医学部 保健学科 病態検査学 教授 加藤 雅彦	1		・実践的な使用方法を基礎から教えて頂きとても分かりやすかったです。事業所では膀胱や便の貯留を見るために購入したのですが、もっと幅広く活かせるようにスタッフに伝達していきたいです。
0302	7月17日(木) 13:00-14:30 14:40-16:10	在宅呼吸療法「酸素療法とNPPV」 (講義・演習) 在宅呼吸療法	鳥取大学医学部附属病院 呼吸療法認定士 長谷川裕恵	2		・NPPVに関わる呼吸療法の話をしていただき分かりやすかったです。 ・NPPVやHOTの機械について直接業者の人と話す機会も普段ないので理解が深まりました。 ・NPPVについて関わりがあまりなく分からないことだらけででしたが、今回の講義で少しだけですが理解することができました。 ・HPTはよく利用している方がいるため、今後のケアに役立てようと思います。
0303	11月6日(木) 14:40-16:10	在宅における栄養管理の実際	錦海リハビリテーション 病院 管理栄養士 木嶋 恵美	2		・訪問看護利用者にも栄養指導を導入したい。 ・管理栄養士の居宅療養管理指導の流れが理解できた。 ・食事に悩む在宅利用者に管理栄養士を紹介したい。 ・急性期看護師として訪問栄養を初めて知り、簡便食の提案が参考になった。
0304	9月18日(木) 10:40-12:10	がん性疼痛と看護	鳥取大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 矢間 友美	3	1	・がん性疼痛が強ければ「主治医に相談」が第一選択だったので、まずはその人の痛みを評価、アセスメントし、医師へつなげていきたいと思いました。 ・痛みの種類や、それによって効きやすい薬剤の種類があることを把握していなかったのが学びになりました。 ・聞き取り方やアセスメントなどががん性疼痛以外の人も活かそうなので、活用していきたいと思いました。 ・在宅で、がんで看取りの方も多いので、今回の講義はすぐに活用できることも多く、良い学びとなりました。 ・少しでもQOLよく生活してもらいたいのので、薬剤師や医師と連携して疼痛緩和を行っていきたいです。
0305	9月3日(水) 13:00-14:30	在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア ～有効な口腔ケアの方法を学ぶ～ (講義)	どい歯科クリニック 院長 土井 教子	2		・口腔ケアの必要性を改めて感じた。 ・口腔ケアの前には一度口腔内の観察をしてからケアを行うおうと思います。 ・日々のケアにつながる話が聴けて良かった。 ・歯科医につながる方法を聞けて良かった。 ・利用者に長く食事をしてもらいたいのと思った。 ・糖尿病と歯周病の関係が興味深かったです。 ・地域歯科医療連携室というところがあるのを知らなかったもので、知れてよかったです。
0306	9月3日(水) 14:40-16:10	在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア ～有効な口腔ケアの方法を学ぶ～ (演習)	鳥取大学医学部附属病院 歯科口腔外科 歯科衛生士 渡辺 靖子	2		・口腔ケアの手技を再確認することができました。 ・実際に訪問で口腔ケアをする際に今回の研修を振り返りながらケアをしていこうと思います。 ・ジェルを自分で使用した事がなかったので思っていたよりも不快で驚きました。 ・口腔ケアをするときはBDR指標や全身状態の評価をしてから実施することを意識していきたい。 ・口腔内の観察や生活自立度をきちんと情報収集をして介入することが大切だと感じました。 ・実際に患者さん側でしてみると、口腔ケアを受ける人の気持ちや状態が知れて良かったです。

Ⅲ コース：訪問看護能力強化コース

研修項目1/4 在宅医療・看護についての講義および演習

【ねらい】 訪問看護師に必要な知識・技術の向上をはかる

【内容】 受講生が獲得したい分野に関連する科目を中心に30講義以上を受講

(訪問看護に関する学会・研修会・院内研修・カンファレンス等への参加についても、30講義に含めることができる)

Ⅲ 訪問看護能力強化コース講義 受講状況及び受講生の感想

1. 地域包括ケアシステム

講座ID	日時	講義名	講師	受講者数	リモート参加人数	印象に残ったこと、感想（※一部抜粋）
0101	10月30日(木) 10:40-12:10	地域包括ケアシステムの概念・機能	尚徳地域包括支援センター 管理者 大濱 伸也	3	1	・地域ケアシステムや包括支援センターについて学ぶことができた。訪問看護をしていて関わることも多くあるため、今後の参考になります。 ・改めて米子地域の高齢化率を数字で見るとたくさんの課題があり、在宅支援に力を入れて取り組んでいかなくてはと感じた。 ・地域包括の実習に行ってきたからの講義だったので、振り返れることもでき良い学びになりました。困難事例などで関わる事も多い機関なので、いろいろ学ぶことができて良かったです。
0102	8月20日(水) 10:40-12:10	訪問看護の制度とその活用	(元名古屋女子大学健康科学部看護学科) 長谷川洋子	2		・医療・介護保険制度は覚えることが難しいので適宜振り返りながら少しずつ覚えていきたいと思っています。 ・制度のことがわかっていないまま仕事をしている部分はまだ多いので、少しずつでも覚えていこうと思います。
0103	6月12日(木) 10:50-12:20	必須講義 訪問看護師の役割・機能・特性	すまいる訪問看護リハビリステーション 坪倉 真由	4		・利用者が在宅で暮らしていくこと、そのためにどの様に介入していくか利用者の思いにそいながら病状が安定し生活が続いていけるように関わっていくことが大切かなど改めて理解できました。 ・訪問看護の方達が、どんな風に仕事をしているのかわかる事ができました。また、訪問看護をする際、個々のニーズにあわせ、色々な事にきをつけながら仕事をされている事が理解できました。他職種との連携もとても重要だとわかりました。 ・病院と在宅の違いが分かり、生活者の中に看護師が入っていくということが、とても興味の湧く内容でした。

0307	9月3日(水) 10:40~12:10	呼吸ケア	鳥取大学医学部附属病院 集中ケア認定看護師 細田有紀子	3	・気管吸引時にカテーテルを折る事は自分がやっていたことなので、今回知識をアップデートできた。・実践できたのは良かった。・自分が患者役ができて実感できた。・自分の仕事に活かせる学びが多かった。・聴診も自信がないところがあったので今回改めて学べて良かった。・呼吸を意識しながら体位変換をほとんどしてきませんでしたが今回の講義を受け呼吸を意識しながらの体位交換もしていこうと思いました。・前傾側臥位は実践したことがなかったので、今後の介入の選択肢の1つとして覚えておこうと思います。・自分で体位の経験もできて、呼吸のしやすさが実感できてよかったです。
0308	7月24日(木) 10:30~12:00	在宅看護学演習：学部聴講 訪問看護実践に必要な能力について考えよう(特別講義)	米子医療センター 地域医療連携室 看護師 岡田悦子	3	・様々な実際にあった困難事例について話して下さり、興味深かったです。後から考えるともっとこんな対応もあったかもしれないというような事例もあり色々と考えさせられました。・訪問看護を行っていく上で、利用者とその家族の思いや意向を聞き対応していく必要があると改めて学ぶことができました。・その時の利用者の状態が入院・受診が必要な場合でも何かしらの理由で断られることもあるため、利用者・家族に一番良い形で進められるよう考えながら行動したいと思います。・私も急性期病棟から訪問看護ステーションに行き、訪問看護が楽しいと思っている所です。楽しいと思えるところ、逆に大変だなと思うところなど共感させてもらいました。・事例では医師が往診してなぜ訪問看護を依頼しないのか、もう少し早く介入できる形はなかったのかとも思いました。・貴重なお話をありがとうございました。
0309	7月17日(木) 10:40~12:10	在宅における感染対策	鳥取大学医学部附属病院 感染制御部感染予防対策 担当師長 感染症管理認定看護師 上瀬 紳子	3	・実際の訪問の現場で、感染対策が不十分な点を考えることができ、今後それをふまえて対応していこうと思う。・以前はアルコール手指消毒を持ち歩いていないステーションも多かったという話を聞いて、コロナによってかなり感染対策意識が進んだのだと感じました。・在宅用の対策をお話し頂いたので分かりやすかったです。・耐性菌は実際に在宅でも聞いているので対策が聴けて良かったです。
0310	8月5日(火) 10:40~12:10	在宅でのリハビリテーション	錦海リハビリ ステーション病院 リハビリテーション技術部 作業療法士 星山 望	2	・認知症で介護拒否のある方にどの様に介入していくかは定期的に悩む事例があるので上手く介入できた事例が紹介されていて参考になりました。・訪問リハビリでの実際に学ぶことができ、今後のリハビリの方との連携等の参考になりました。
0311	11月12日(水) 13:00~14:30 14:40~16:10	在宅における皮膚ケア	鳥取大学医学部附属病院 皮膚・排泄ケア 認定看護師 藤井 香織	3	・褥瘡についてあらためて基本を学べた。褥瘡の人が多くので適切なケアを行っていききたいです。・在宅での事例を交えて紹介してもらえたので今後の参考にできそうでした。・褥瘡や皮膚トラブルのある人と関わる事は多いため、今回の講義を聴き多くのことを学べたので実践していきたいと思ひます。

4. 在宅薬剤管理

0401	10月16日(木) 13:00~14:30	複数疾患や加齢による機能低下を有する療養者の在宅薬剤管理(心疾患・糖尿病に使用する薬剤を中心に)	鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師 太田 友樹	3	・薬に関して分からないことも多いので今日の講義で少し学ぶことができました。医師へ薬に関して聞きづらいこともありますが、薬局さんが入っている場合聞きやすいですし、よく相談させて頂いているので大変助かっています。・心不全、糖尿病の人が多いので勉強になりました。・心不全に用いられる薬の種類や特徴は気にしたことが無かったので参考にになりました。
0402	10月16日(木) 14:40~16:10	痛みの評価と薬の使い方(在宅での麻薬管理/残薬管理/PCAポンプの使い方)	鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 薬剤師 栢木 啓介	3	・鎮痛剤の使用等について学べました。今後の訪問時に思い出しながら対応したいと思ひます。・癌の利用者さんも多いので、良い学びになりました。エイミーを使ってみたいです。・鎮痛剤の選択についての考え方が知れて勉強になりました。オピオイドについては分かかってないことも多かったので今後活かしていきたいです。
0403	7月3日(木) 13:00~14:30	神経難病の治療と薬剤管理(パーキンソン病を中心に)	鳥取大学医学部 脳神経内科学 准教授 渡辺 保裕	4 1	・パーキンソン病の方も利用者におられ、症状、ドパミンが関係していることは知っていたけれど、どのような関連があるかという深い所を知る事ができて次に訪問に行った際に観察などに活かしたいと思ひます。・画像、動画があり症状がとても分かりやすかったです。・とても興味があったので良かったです。ありがとうございました。・利用者にもパーキンソン病の方がおられ、講義の話がそのまま当てはまる部分が多く興味深く聴かせていただきました。・普段から関わっている患者・利用者を思い浮かべながら講義を聴く事が出来た。今後の関わりに役立てたいと思う。・神経難病(パーキンソン病、ALS)の利用者がいるので症状についてや、薬の副作用など改めて学ぶことが出来て良かったです。

5. フィジカルアセスメント

0501	10月23日(木) 9:00~12:10 13:00~16:10	呼吸・循環器機能(基礎) 呼吸・循環器機能(応用)	鳥取大学医学部附属病院 特定看護師/クリティカル ケア認定看護師 中本 有史	3	・病院勤務時にも呼吸器、循環器の経験がなかったので苦手分野を今回学べて良かったです。午前中の座学を午後の症例で活かして良かったです。・心音聴取を意識して行うことが無かったですが、在宅の現場では心不全の利用者も多いので、心音から何が起きているか判断するのも大事にしていかなければと感じました。・患者さんと関わる際にはまずはフィジカルアセスメントを行う必要があるため、今回の研修を通して学べて良かった。在宅での看護へ繋げていきたいと思ひます。
0502	9月11日(木) 13:00~14:30 14:40~16:10	脳/神経機能① 脳/神経機能②	鳥取大学医学部附属病院 脳卒中リハビリテーション 看護認定看護師 中本 美先	2	・脳血管障害はよくおこる病気なので、フィジカルアセスメントを学ぶことができよかったです。・訪問時に利用者に症状等がみられた際には今日の学びを活かしたい。・脳外科病棟で勤務しましたが、記憶が薄れていた部分も多かったので思い出せてよかったです。・FASTチェックやELVOスクリーニングはネットケア(職場)にも伝達していこうと思いました。
0503	11月6日(木) 13:00~14:30	感覚・運動・末梢循環機能及び心臓リハビリテーション	鳥取大学医学部附属病院 心臓リハビリ指導士 石賀奈津子	2	・音叉による深部知覚の検査やSPPBなど知らなかった話も多く、興味深かったです。・評価やリハビリについて知らないこともあり、今回講義を通して新しい知識を身につけることができました。訪問看護を行う上での参考にしていきたいと思ひます。

6. セルフケア支援

0601	6月12日(木) 9:00~10:30	必須講義 訪問看護実践に役立つ概念・理論	鳥取大学医学部保健学科 地域精神看護学 教授 仁科 祐子	4	・講義はとても分かりやすかったです。・事例を基に自分の看護を言語化するのが難しかった。・最後の医師の情動が印象に残った。わかる気がします。・生活と医療を統合する看護についての講義も参考になりましたが、今まで関わってこられた人たちの印象的だった言葉も紹介しておられて考えさせられる内容でした。・利用者、家族の生活の中で、医療の介入の割合が大きくなることでその人の負担になる事やニーズが守られないことにつながる場合もあると改めて学んだ。・現在訪問看護を利用している方々のニーズの再確認を行い、その目標にそった計画になっているか見直しをしていこうと思う。・生活の中に医療をその人それぞれにあった関わりの方など学ぶことができました。・とても分かりやすかったです。ありがとうございました。
------	------------------------	--------------------------------	------------------------------------	---	---

7. 家族支援

0701	12月5日(金) 9:00~10:30 10:40~12:10	家族看護とは何か 家族の意思決定支援	元鳥取大学医学部 保健学科教授 南前 恵子	3 1	・普段意識していなかったが、自分の関わりが家族看護や家族の意思決定支援につながっていたことを振り返る機会となった。家族支援では、もっと早く情報提供や介入ができたと感じる事例もあり、今後はより意識して取り組みたいと考えている。講義を通して、日常の看護を振り返りながら家族看護の重要性を学ぶことができた。
0702	11月17日(月) 13:00~14:30	家族看護論：学部聴講 家族支援専門看護師の役割と高度実践	家族支援専門看護師 中井美喜子	3	・家族看護について理解が浅いま受講したが、日々の業務や事例と深く結びついていることに気づき共感できた。忙しさの中で見落としがちな倫理も振り返ることができ、経験だけでなく根拠を持つ重要性を再認識した。・利用者や家族との関わりを振り返る際、できなかった点に目を向けがちだと気づいた。今後は強みやポジティブな面にも意識を向け、それを伸ばしていく姿勢を大切にしたいと感じた。・訪問看護をしていて家族と関わる事は病院にいた時よりも多いので、今回の学びを振り返りながら対応していきたいと思ひました。治療の中では家族さんが置き去りにされていることもあるため家族を含めた看護を心掛けたいと思ひます。
0703	11月17日(月) 14:50~16:20	家族看護論：学部聴講 家族支援専門看護師の活動の実践	家族支援専門看護師 中井美喜子	3	

8. エンド・オブ・ライフケア

0801	10月7日(火) 13:00~14:30 14:40~16:10	エンド・オブ・ライフケア～死生観～ エンド・オブ・ライフケア 看取りのケア～臨末期～	鳥取大学医学部 保健学科 成人・老人看護学 講師 大庭 桂子	3	・自分の臨末期体験は改めて看取りや自分の死生観を振り返れてよかったです。看取りを多く関わっているため、改めて自分の看護観やケアを振り返る事ができました。・見取りのケアについて根拠を意識せずに行っていた部分もあったことに気づくことができました。家族の思いに寄り添う事を大切にしていきたいです。・普段死生観について考えることはあまりないため、今回の講義を受けて考えることができた。また、看取りについても深く考え直すことができました。
0802	8月20日(水) 10:40~12:10	地域・在宅での死を考える	認知症の人と家族の会 看護師/介護支援専門員 吉野 靖子	2	・自分や利用者の方のQODについてあらためて考える事ができました。・訪問看護を利用されている方の最後はどうなりたいたいかなど普段は話す機会もないので、今後は話の中で少しずつ聞いていきたいと思ひました。・制度の限界を越えて利用者さんの希望に沿って介入された事例を紹介しておられて、敬意に驚かされました。

9. 対人関係

0901	7月31日(木) 13:00~14:30 14:40~16:10	コミュニケーションと対人関係の心理学 コミュニケーションの再確認	鳥取大学医学部保健学科 地域・精神看護学講師 高間さとみ	4	・コミュニケーションタイプはノンアサーティブタイプだったため、アサーションを取り入れたコミュニケーションを行えるよう、日々意識しながら行動していきたいと思ひます。・とても楽しい講義でした。・自分の性格についてあまり深く考えることはなかったのですが、自分の性格の傾向を知るのは必要だと思ひました。・自分の職員、利用者間のコミュニケーションを振り返るいい機会になりました。・他の受講生の話も聞けて良かったです。・個人的な話で言えば、看取ったおじいちゃんを思い出しました。・訪問看護を利用して家族を看取られたときに思ったことや感じた事を実際に聞けて貴重な体験でした。
0902	12月5日(金) 13:00~14:30 14:40~16:10	コミュニケーションスキル～精神疾患を持つ人とのコミュニケーションの視点(事例展開)～ 在宅看護の難しい場面への対応～対人関係と精神看護～	西伯病院地域在宅医療部 看護師長 精神科認定看護師 (退院調整領域) 高田 久美	3	・多くはないものの精神の訪問もあるので参考にになりました。・自分の勤務先にはあまり精神の利用者がいないので実際の事例を交えた関わり方の紹介もあり参考になりました。・精神の訪問は数が少ないのと、落ち着いた方しか訪問が無いですが、精神の方との関わりを学ぶ事ができ、また自分の感情の評価についても考えることができました。

研修項目2/4 訪問看護ステーション実習

【ねらい】 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る

訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる

【実施期間】 令和7年8月～11月(2～3日間)

【実施内容】 受講生が2～3日間、訪問看護ステーションで実習。

・実習最終日に、実習生と実習先の管理者またはスタッフ、T-HOC支援室担当者が参加し、カンファレンスを実施して実習の振り返りを行った。

【課題】 訪問看護実習レポート

研修項目3/4 地域包括支援センター実習

【ねらい】 地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際に行っている地域住民への働きかけを知る

家族を含めた利用者に対し、専門的知識と個別性をふまえた支援の展開を知る

【実施期間】 令和7年8月～10月(1日間)

【実施内容】 地域包括支援センターにて指導者のもと、担当者会議への同席、モニタリング訪問の同行、地域の介護予防活動への参加などを行い、1日の実習を経験した。

研修項目4/4 実習後の意見交換会(実践コースと合同)

【ねらい】 所属や経験の違う受講生同士が学びを共有することで、理解が深まり、その気づきを今後の看護実践に活かすことができる

【日程】 令和7年12月11日(木) 13:30～15:00

【場所】 鳥取大学医学部アレスコ棟261講義室

【参加者】 3名

【研修内容】 1. アドバイザー挨拶「訪問看護師として大切にしていること」

アドバイザー：倉本純子(ばぶりか訪問看護ステーション)

2. 実習報告

3. 意見交換

【アンケート回答】（一部抜粋）

- ・在宅での生活をサポートする上で病院より個別性に富んだ密なサポートが必要だと感じた。
- ・在宅、病院での連携について考え直すことができた。
- ・病棟で働いていると、在宅での患者さんの生活はイメージしにくいと感じた。

■実習施設及び各コースの人数内訳とカンファレンス実施日

地域	実習施設	コース別人数			カンファレンス実施日
		実践コース	Ⅱコース	Ⅲコース	
東部	鳥取県看護協会訪問看護ステーション	1	1	1	10/17, 11/28
中部	訪問看護リハビリステーションのじま		1		10/22
西部	訪問看護ステーション博愛		2	1	8/1, 27, 11/28
	すまいる訪問看護リハビリステーション	1	1		11/5, 11/10
	訪問看護ステーションネットケア	1	1		9/29, 11/19
	訪問看護ステーションなんぶ幸朋苑	1	1		8/21, 10/10
	訪問看護ステーション米子東		1		10/9
	ぱぶりか訪問看護ステーション		1		12/10
	まごころ訪問看護ステーション	1	1	1	10/20, 29, 30
	済生会訪問看護ステーション白鷗	1	1		8/19, 9/5
	南部町訪問看護ステーション	1	1		10/10
	はまなす訪問看護ステーション	1			10/31
	訪問看護ステーションほんわか	1	1		9/11, 11/19

地域	実習施設	コース別人数	
		実践コース	Ⅲコース
東部	鳥取桜ヶ丘地域包括支援センター	1	1
西部	米子市尚徳地域包括支援センター	1	1
	米子市東山地域包括支援センター		1
	境港市地域包括支援センター	1	
	日野町地域包括支援センター	2	

〈訪問診療同行〉		
地域	実習施設	実践コース
東部	のぐち内科クリニック	1
西部	ひだまりクリニック	2
	日野病院	2

1-5 学習支援

■訪問看護ステーションラウンド

訪問看護ステーション実習中のフォロー体制

受講生が訪問看護ステーションで実習する最終日に支援室から副室長あるいは室員が各訪問看護ステーションに出向き受講生、訪問看護ステーションの担当者と共にカンファレンスを実施しました。カンファレンスでは実習で学んだ在宅における看護師の役割やスキルなどを共有し振り返りをすることで自己の課題を明らかにしていきました。

また、受講生が実習で直面した問題に対しては、解決への方向性が見いだせるようステーション管理者と連携し実習が最大の効果をだせるような支援体制をとりました。

カンファレンスに参加し、受講生たちが在宅での看護、社会資源の活用、地域との連携など幅広い知識を得て視野が広がっていく変化を目の当たりにすることで、改めて実習の成果は大きいと感じました。

また支援室のスタッフと訪問看護ステーション管理者や看護師と施設を超えて人材育成について検討する機会であり地域連携の促進に繋がると考えます。

■各病院の学習支援体制

各病院のT-HOC担当責任者

I コース（基礎コース・実践コース）の受講生が所属する各病院にはT-HOC担当責任者を任命し以下の業務を行い受講生の学習を支援する。

- ・T-HOC受講生が受けている教育内容を把握し助言及び指導を行う。
- ・院内、各部署管理者への情報発信を行う。
- ・在宅医療推進支援室との情報交換を図る。

令和7年度各施設のT-HOC担当責任者

- ・鳥取県立中央病院：吉田 一恵 副看護局長
- ・岩美町国民健康保険 岩美病院：黒阪佐美代 副院長・看護部長
- ・医療法人社団 尾崎病院：神戸 道子 看護部長
- ・鳥取県立厚生病院：山根 香里 患者支援・地域連携センター長兼看護局副局長
- ・独立行政法人国立病院機構 米子医療センター：東 百合子 副看護部長
- ・社会医療法人同愛会 博愛病院：足塚 則子 副看護部長
- ・日南町国民健康保険 日南病院：北垣麻規子

- ・日野病院組合 日野病院：近藤 仁子 看護局長
- ・鳥取大学医学部附属病院：足立 佳子 教育担当副看護部長
依藤 裕子 教育支援室看護師長

■DVD学習支援

支援室では、受講生の希望者へ貸し出しを行っています。

DVD視聴後にレポートを提出していただき、学習内容を確認しています。

DVD学習貸し出しリスト

地域包括ケアシステムの概念と機能	成人学習者の特性と教育指導計画（後編）
訪問看護制度	医療と倫理 倫理原則（Part 1）
地域医療―多職種連携―（前編）	医療と倫理 倫理原則（Part 2）
地域医療―多職種連携―（後編）	医療と倫理 倫理原則（Part 3）
とっとり方式認知症予防プログラム（運動編）	医療と倫理 インフォームドコンセント（Part 4）
とっとり方式認知症予防プログラム（座学編）	医療と倫理 インフォームドコンセント（Part 5）
人生会議	医療と倫理 安楽死と尊厳死（Part 6）
リーダーシップ理論	看護における倫理的ジレンマとその分析（前編）
組織変革/変革理論	看護における倫理的ジレンマとその分析（後編）
リーダーシップとグループマネジメント（前半）	在宅看護技術 在宅看護・訪問看護の基本
リーダーシップとグループマネジメント（後半）	在宅看護技術 在宅療養生活における基本的な技術
生涯教育理論（前編）	在宅看護技術 療養を支える技術/栄養ケア・呼吸ケア
生涯教育理論（後編）	在宅看護技術 療養を支える技術/排泄ケア・皮膚ケア
成人学習理論（前編）	在宅看護技術 在宅療養における災害対策と自己管理
成人学習理論（後編）	ユマニチュード
成人学習者の特性と教育指導計画（前編）	

DVD活用状況

受講生の希望者へ、貸出を行っています。

Ⅲコース受講生については視聴後にレポートを提出していただき学習内容を確認し単位を付与しています。

■専門書籍の貸し出し

T-HOC書籍一覧〈新刊〉

作品名	出版社	作品名	出版社
コミュニティケア (27-5) 5月号	日本看護協会出版会	コミュニティケア (27-6) 6月号	日本看護協会出版会
コミュニティケア (27-7) 7月号	日本看護協会出版会	コミュニティケア (27-8) 8月号	日本看護協会出版会
コミュニティケア (27-9) 9月号	日本看護協会出版会	コミュニティケア (27-10) 10月号	日本看護協会出版会
コミュニティケア (27-11) 11月号	日本看護協会出版会	コミュニティケア (27-12) 12月号	日本看護協会出版会
コミュニティケア (28-1) 1月号	日本看護協会出版会	コミュニティケア (28-2) 2月号	日本看護協会出版会
コミュニティケア (28-3) 3月号	日本看護協会出版会	コミュニティケア (28-4) 4月号	日本看護協会出版会
訪問看護と介護 (30-3) 5-6月号	医学書院	訪問看護と介護 (30-4) 7-8月号	医学書院
訪問看護と介護 (30-5) 9-10月号	医学書院	訪問看護と介護 (30-6) 11-12月号	医学書院
訪問看護と介護 (31-1) 1-2月号	医学書院	訪問看護と介護 (31-2) 3-4月号	医学書院
25 医療福祉サービスガイドブック	医学書院	ポイントオブケア看護エコー	照林社

2 出向プログラム

2-1 訪問看護ステーションへの出向システム（T-HOC支援による）

（概要）

病院に在籍しながら一定期間、訪問看護ステーションに出向し訪問看護業務を実践することにより病院にとっては看護ケアや在宅看護の視点の獲得、訪問看護ステーションにとっては多様な看護人材の育成・活用力の向上がはかれる両方にメリットのあるシステムである。

- (目的) ①訪問看護師の人員確保
②施設間の連携を強化する
③病院勤務看護師が在宅志向を高める
- (出向対象者) ① 原則 T-HOC Iコース(基礎・実践コース)を修了した者
② ①の希望者がなければ T-HOC IIコース・IIIコースを修了した者
③ ①②の希望者がなければ T-HOCを受講している施設の出向を希望する看護師

(期間) 原則1年間 最長2年間(派遣先施設との協定により個別に対応)

(業務内容) 訪問看護ステーションでの看護業務

(資格・条件) ・看護師臨床経験3年以上
・クリニカルラダーレベルⅡ～Ⅲ

- (実施体制) ・病院(出向元)と訪問看護ステーション(出向先)は出向協定書を取り交わす。
・病院(出向元)と出向看護師、訪問看護ステーション(出向先)と出向看護師は労働契約を取り交わす。
・出向看護師の件数費相当額は4月～6月の3か月間は病院(出向元)が負担、7月～3月の9か月間は出向先が負担する。
・出向先の訪問看護ステーションは原則として3施設であり1施設1看護師とする。
・出向前～出向中～出向後のサポートはT-HOC支援室が行う。

(出向のプロセス)

- ①実施体制の整備
出向の目的や出向条件を明確にして組織内で実施体制を整備する
病院・訪問看護ステーション双方の条件を調整し時期・期間・処遇等を決める
- ②契約書の締結
- ③研修・同行訪問・単独訪問の実施
- ④出向の評価

(T-HOC支援室による支援内容)

- ①病院や訪問看護ステーションに対して出向の意義と目的、効果を周知し参加促進を図る
②出向を行う病院、訪問看護ステーションを選定しマッチングを行う
③出向実施前・実施中を通じて病院と訪問看護ステーションの関係作りに努める
④出向元、出向看護師、出向先のニーズのすり合わせを行う
⑤労働条件、出向期間、賃金など出向条件の調整にあたり病院、訪問看護ステーションを支援する

(出向中のフォローアップ)

- ①学習サポートカンファレンス
2ヶ月に1回 訪問看護管理者、プリセプター、出向看護師、病院管理者、保健学科教員、T-HOC支援室担当者が集まり、訪問看護業務の習得・実施状況について確認し改善が必要であれば改善策を検討する。
- ②出向元看護管理者との面談
半期に一度(9月・2月)出向看護師は出向元に帰院し看護管理者等に報告・相談を行う。
- ③出向者交流会
半期に一度出向中の看護師、出向経験看護師、出向予定看護師が集まり、日頃の疑問や悩み、体験を共有することにより交流の促進をはかる。

(出向の効果)

- *出向元
・退院調整・退院支援能力向上
・フィジカルアセスメント能力とケアのスキル向上
・地域と病院、訪問看護ステーションとの連携強化
- *出向後の病院での役割
・退院支援の指導者役割を担うことにより院内全体の退院支援の質の向上
・地域との顔の見える関係作りの促進
・出向での学びを院内・部署内で共有する
・在宅療養を支えるサービスや多職種との連携・調整などについて指導・助言
・退院支援に関する勉強会講師、ファシリテーター役割などを担う
- *出向先
・訪問看護ステーションの人材確保の一助
・訪問看護の理解の促進、魅力の発信
・病院と訪問看護ステーションの連携強化
・訪問看護師の意識向上とスキルアップ

2-2 訪問看護ステーションへの出向実績

平成30年度より毎年、T-HOC受講を修了した病院看護師(鳥取大学医学部附属病院)3名が県内の訪問看護ステーションへ1年間出向し在宅療養支援の知識・技術を学び成果を病院の看護ケアや退院支援に還元している。

年度	出向者	出向先
平成30年度	鳥大 25歳(看護師経験3年) 基礎コース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)
	鳥大 27歳(看護師経験3年) 基礎コース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
	鳥大 50歳(看護師経験3年) 基礎コース修了	訪問看護ステーションのじま(倉吉市)
令和元年度	鳥大 29歳(看護師経験7年) IIコース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)
	鳥大 43歳(看護師経験21年) IIIコース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
令和2年度	鳥大 51歳(看護師経験4年) 基礎コース修了	訪問看護ステーションのじま(倉吉市)
	鳥大 38歳(看護師経験15年) IIコース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)
	鳥大 44歳(看護師経験22年) IIIコース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
令和3年度	鳥大 30歳(看護師経験8年) II・IIIコース修了	訪問看護ステーション米子東(米子市)
	鳥大 47歳(看護師経験25年) II・IIIコース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)
	鳥大 45歳(看護師経験23年) IIコース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
令和4年度	鳥大 40歳(看護師経験18年) IIコース修了	訪問看護ステーション白鷗(境港市)
	鳥大 39歳(看護師経験17年) II・IIIコース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)
	鳥大 48歳(看護師経験26年) II・IIIコース修了	訪問看護ステーションなんぶ幸福苑(米子市)
令和5年度	鳥大 31歳(看護師経験8年) IIコース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
	鳥大 40歳(看護師経験10年) IIコース修了	智頭病院訪問看護ステーション(智頭町)
	鳥大 49歳(看護師経験27年) II・IIIコース修了	訪問看護ステーションなんぶ幸福苑(米子市)
令和6年度	鳥大 41歳(看護師経験11年) IIコース修了	訪問看護ステーションくらよし(倉吉市)
	鳥大 43歳(看護師経験21年) IIコース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)
	鳥大 51歳(看護師経験29年) IIコース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
令和7年度	鳥大 46歳(看護師経験24年) IIコース修了	訪問看護ステーションなんぶ幸福苑(米子市)
	鳥大 27歳(看護師経験5年) I基礎コース修了	訪問看護ステーションネットケア(米子市)
	鳥大 32歳(看護師経験24年) I実践コース修了	訪問看護ステーション博愛(米子市)

○令和7年度第1回出向者交流会

【日時】令和7年8月29日(金)10時00分～11時10分

【会場】鳥取大学医学部アレスコ棟2階 チュートリアル室2

【参加者】出向中看護師3名・出向経験看護師3名・看護管理者1名・保健学科教員1名・T-HOC支援室3名

【趣旨】出向が始まり4か月経ち、単独での訪問も始まり戸惑いや不安、疑問などを感じやすい時期である。現在出向中である看護師と出向経験者、看護部、保健学科等が集まり、状況を共有・共感しながら、問題や課題等を参加者で話しあいアドバイスをを得る機会とする。

また交流会が出向者の出向を継続する活力につながり、訪問看護の楽しさを感じていただける事を期待し開催した。

- 【内容】1. T-HOC支援室員より平成30年から始まる出向プログラムの事業等の状況説明。
2. 現在出向中看護師、出向経験者から、現在の状況について共有し意見交換をおこなう。
3. 出向中看護師は、この4か月間で病院と在宅のケアの違いを感じる経験をした。在宅での「看取り」や「急変時の対応」など、これまでの看護経験とは異なる看護の視点を痛感し、改めて学習する課題ができた。
4. 院内の退院支援ナースの必要性に気づき、「各病棟に配置する」「各病棟に窓口があれば退院支援時の連携がスムーズになる」という意見が出た。そして、退院支援ナースが病棟看護師への指導・助言を行うことで、病院全体の在宅志向が向上していくという考えも出た。看護部からは、退院支援ナースを各病棟に配置できるように対応していると返答があった。
5. 病院から在宅への連携には「情報共有」が基本であるが、その情報を一方的に「伝える」だけでなく、「共に考える」ことが必要である。両方で「情報を共に考える」ことが、看看連携であることが理解できた。そして、出向経験者がこの気づきを今後指導・助言して退院支援を行っていくことが重要と出向の成果から課題が述べられた。

3 事業連携

3-1 看看連携による事業連携

平成27年度に開講した鳥取大学医学部附属病院「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」は看看連携システムを基盤にした地域の看護職（訪問看護ステーション看護師、地域関連病院看護師）、医療介護施設、看護協会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、自治体等と連携を強化し協働して地域で働く訪問看護師を育てるシステムです。

鳥取大学医学部附属病院看護部では以前より本院を退職した看護部長、副看護部長、看護師長などが再就職、あるいは出向という形で地域の医療機関と看看連携をとってきています。看護管理者が地域に出向することにより本院で培った看護管理能力の提供や看護体制改善などが主な役割ですが、その他にスタッフ同士の人事交流、専門・認定看護師の派遣などを行っています。

さらに看護師のキャリアアップとして大学病院の研修会参加、地域の施設見学、新人看護師育成研修など幅広い人材育成の連携を図っています。

医療法改正に伴い病院の機能分化が推進され保健、医療、福祉等のあらゆる場において看護が提供できる能力が必要となってくる中、地域包括ケアのマインドに働きかけるには訪問看護体験、他施設との人事交流、訪問看護ステーションへの出向が効果的と言われています。この具体的な取り組みの基盤になるのは看看連携であり、看看連携からさらに発展した職種を超えた連携であると言えます。

平成30年度より毎年、T-HOCプログラム修了生が地域の訪問看護ステーションへの出向を行っています。出向を開始するにあたり出向元である病院、出向先である訪問看護ステーションの理解、出向者のニーズの把握など多くの情報共有や調整が必要となります。このような中、異なる機能を持った施設の管理者同士、顔の見える関係作りができている看看連携体制のもとスムーズな調整ができ出向が実現し今年度は出向受け入れ可能な施設は県東部1施設、中部2施設、県西部6施設と年々増加し、出向者は目標を達成できる出向先を選択できるようになってきました。

更に4～5年前よりT-HOCプログラムを修了した受講生が、鳥取県内の訪問看護ステーションの起業や管理者として運営に携わっています。そして受講生の実習受け入れや、研修会の講師、アドバイザー役割を担うなど積極的にご協力いただき、人材育成を通じた看看連携に発展しています。

今後、在宅医療の推進のためさらに看看連携力を高め、地域で育てていただく人材育成プログラムへと繋げていきたいと思えます。

3-2 その他

■看護部教育支援室連絡会議

看護部主催の「看護部教育支援室連絡会議」に参加し新人レベル看護師育成状況の確認、教育体制の評価、修正について協議するとともに、看護部、保健学科、在宅医療推進支援室間で情報交換を行う。2か月に1回の定期開催。

構成員

鳥取大学医学部附属病院看護部長・副看護部長・看護部教育支援室看護師長・ティーチングナース
保健学科教員・在宅医療推進支援室員

	日 時	内 容	
第1回	5月27日 11時~12時	4月接遇他者評価結果 1年目新人看護師シミュレーション研修 保健学科連絡	1年目看護師ローテーション業務内容 T-HOC連絡
第2回	8月26日 11時~12時	5月基本的姿勢と態度他者評価結果 2年目看護師交流会まとめ 6月基礎看護技術・電子カルテ到達状況 1年目シミュレーション研修（基礎編）まとめ 1年目シミュレーション研修（応用編）案内	基礎看護技術研修について 保健学科連絡 2年目ローテーション業務 T-HOC連絡
第3回	9月30日 11時~12時	前期マンツーマン指導まとめ マンツーマン講義予定 保健学科連絡	1年目シミュレーション研修案内 T-HOC連絡
第4回	3月24日 11時~12時	1月基礎看護技術・電子カルテ到達状況 後期マンツーマン報告 次年度新ティーチングナース任命式	

■西部在宅ケア研究会

在宅ケアについての情報交換と研鑽を目的とし、鳥取県西部地区を中心に活動している多職種からなる研究会。例会として開催される在宅医療に関する講演会に、受講生の受講を許可されている。

第75回例会 令和7年7月9日

講演：「これからの時代に備える 米子市独自のエンディングノート「私の人生手帳」について」

講師 米子市長 伊木 隆司 〈ハイブリッド開催〉

■鳥取県訪問看護ステーション連絡協議会

鳥取県の訪問看護ステーションの会員相互の有機的連携によって訪問看護ステーションの円滑な運営やサービスの向上を図り、事業の健全な発展と保健福祉の向上に寄与することを目的として平成12年に設立された。鳥取県の訪問看護ステーションの情報拠点として訪問看護に関する調査研究・研修会、講演会の開催、訪問看護従事者の交流、関連団体との連携・交流、訪問看護の普及活動広報活動などを行っている。

在宅医療推進支援室室長・副室長・室員が賛助会員として入会し研修会・交流会に参加している。

○研修会

「コーチング研修～コミュニケーションスタイルで苦手なあの人とのコミュニケーションが楽しくなる～」

令和7年8月23日

講師 足立里美 山陰労災病院看護師

4 広報活動

4-1 公開セミナー等の開催

○T-HOC特別セミナー

【目 的】 T-HOC受講生である病院看護師・訪問看護師、総合診療医、行政、教員、看護学生等が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療・看護の現状、課題を理解し相互に連携できる関係づくりを目指していく在宅医療推進室主催のセミナーとする。

第16回

【日 時】 令和7年9月28日（日）10時～15時

【会 場】 鳥取県立厚生病院（倉吉市東昭和町150）

【内 容】 ・開会挨拶 事業担当責任者 仁科 祐子

・来賓挨拶 県立厚生病院病院長 花木 啓一

鳥取県健康医療局医療政策課参事 谷口 和子

・シンポジウム「在宅ケアにおける共感とwell-being～自分のwell-beingは考えていますか?～」

座長 鳥取大学医学部地域医療学講座准教授 孫 大輔

シンポジスト

・孫 大輔 氏 鳥取大学医学部地域医療学講座

「医療者のウェルビーイングをまもるために」

・谷口 和子 氏 鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課

「鳥取県内の看護職員状況と看護師・訪問看護師のハラスメント対策」

・瀬尾 勇仁 氏 緩音訪問看護ステーション

「在宅ケアにおける共感とwell-being」

「どうして空は青いのか」孫 大輔監督 上映視聴

・ワークショップ

「医療者のウェルビーイングを考えるワークショップ」

・ファシリテーター / ワークショップ総括 孫 大輔

・閉会挨拶 事業担当責任者 仁科 祐子

【参加者】 45名

T-HOC受講生16名・看護職19名・医師2名・MSW 1名・コーディネーター1名・教員1名・行政1名・大学理事1名・事務3名

【まとめ】 ・県中部の倉吉市で開催し県内全域から参加者があった。

・異なる職種、立場からの医療者のウェルビーイングが学べ、深く考える機会となったという感想があった。

・ワークショップでは経験や職種の異なるメンバーと話が共有でき、話すことで自分を知り、他者の意見を聞けて勉強になったという感想が多く、もっと多くの方に聴いていただきたい内容であったという意見もあった。

○第6回T-HOC POCUSセミナー

【目的】携帯型エコー（POCUS）の登場で、病棟や在宅で看護師がエコーを使ってアセスメントする活用場面が多くなることが期待されているがまだ触れる機会の少なさや、技術への自信のなさなどから活用が十分ではないのが現状である。そこでT-HOC支援室では看護職が聴診器、血圧計などのように道具のひとつとして携帯エコーを使い適切な評価をし、適切な治療・ケアにつなげていくために毎年セミナーを開催している。携帯エコー初心者から実践者まで参加しやすいように、第6回はエコーで腸内を観察して個々に応じた排便ケアの提供ができるように「便秘エコー」を実施する。

【日時】令和8年1月24日（土） 10：00～12：00

【会場】鳥取大学医学部記念講堂

【講師】鳥取大学医学部保健学科病態検査学 教授 杉原 誉明
日野病院 看護師 田中 恵・砂原 久美子

【内容】・初心者大歓迎！エコーで遊ぼう
・あなたにもできる！エコーを使った排便ケア

【参加者】46名
T-HOC受講生3名、看護師16名（講師含む）、医師2名（講師含む）、教員2名、看護就職支援コーディネーター1名、学生1名、事務1名、子ども12名、業者2名、スタッフ6名

【参加者の感想】
・実際、操作したことで理解しやすかった。
・使い方すら分からない状態だったが、当て方などを知ることができた。見方などまだまだ勉強したいと思います。
・全く触れたことがなかったですが、実際に触らせてもらって大変わかりやすかったです。
・実際エコーに触れて難しかったが、何回か練習すればできそう。
・セミナーに参加翌日、便秘エコーを実施して効果的な排便ケアができました。

4-2 公開講義

令和7年度より、T-HOC受講生に限定せず訪問看護に興味・関心のある看護師、医療、介護福祉関係者が、在宅療養や在宅医療連携について学びやすい教育環境を提供する目的でT-HOCの講義の一部を公開講義としました。本年度は、7回実施し参加者は病院看護師や訪問看護師など計77名でした。参加者からは、講義内容が「役立つ」という回答を72%以上得られました。今後も県全域の看護師を対象に積極的に取り組んでまいります。

【講義内容】

回数	日時	講義内容
1	7月8日	認知症をきたす疾患への正しい理解
2	7月17日	在宅における感染対策
3	8月5日	地域医療と訪問看護
4	9月3日	在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア
5	9月18日	がん性疼痛と看護
6	10月30日	在宅医療における整形外科的疾患
7	11月6日	感覚・運動・末梢循環機能および心臓リハビリテーション

【参加者状況】

職種は、看護師が79%と多かったです。県内全域から参加がありました。

		(人)
看護師	病院・施設看護師	51
	訪問看護師	10
保健師		2
介護支援専門員		1
学生		12
医療事務員		1

令和7年度 T-HOC公開講義

会場は、裏面をご覧ください。

日時・会場	講義名	講師
7月8日（火） ①9：00～10：30 ②10：40～12：10	認知症をきたす疾患への正しい理解	鳥取大学医学部 保健学科 認知症学講座・教授 浦上 克哉 氏
●261講義室		
7月17日（木） 10：40～12：10	在宅における感染対策	鳥取大学医学部附属病院 感染症管理認定看護師 上瀬 幹子 氏
●261講義室		
8月5日（火） 13：00～14：30	地域医療と訪問看護	大山診療所 所長 井上 和典 氏
◆4階講義室		
9月3日（水） 13：00～14：30	在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア	どい歯科クリニック 院長 土井 敦子 氏
★3階レクレーションセンター		
9月18日（木） 10：40～12：10	がん性疼痛と看護	鳥取大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 矢野 友美 氏
◆4階講義室		
10月30日（木） 13：00～14：30	在宅医療における整形外科的疾患	鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション科長 尾崎 まり 氏
◆4階講義室		
11月6日（木） 13：00～14：30	感覚・運動・末梢循環機能および心臓リハビリテーション	鳥取大学医学部附属病院 心臓リハビリ指導士・看護師 石岡 奈津子 氏
★3階レクレーションセンター		

鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター在宅医療推進支援室（T-HOC）
TEL0859-38-6994 <mailto:t-hoc@med.tottori-u.ac.jp>

4-3 事業ホームページ

■T-HOC HPのトップページ
【ホームページによる情報発信】



1. 在宅医療推進のための看護師育成支援事業のホームページ
【目的】本事業のPRおよび情報発信。受講生への情報伝達。
【内容】講義内容の紹介、講演会等のお知らせなど。受講生へ必要書類や講義・研修等の連絡

2. ホームページトップ画面
(URL：https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/hoc/)

HPアクセス数
令和7年度月別合計

	月合計		月合計
3月	1,382	9月	634
4月	846	10月	697
5月	1,028	11月	609
6月	935	12月	933
7月	832	1月	702
8月	394	2月	585

合計 9,577
月平均 798



4-4 定期刊行物（ほっこりな通信）

ほっこりな通信

令和7年度T-HOC開講式挙行

各コース集合研修、講義そして実習が始まりました

T-HOC訪問看護ステーション出向事業

訪問看護ステーション探検

公開講義を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

ほっこりな通信

各コース集合研修、講義そして実習が始まりました

T-HOC訪問看護ステーション出向事業

訪問看護ステーション探検

公開講義を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

ほっこりな通信

第16回T-HOC特別セミナーを行いました

テーマ「在宅ケアにおける共通well-being～自分well-beingは考えますか？～」

公開講座を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

出向先訪問看護ステーション

公開講座を実施しました

No.22

No.23

No.24

5 業績と室員自己啓発

5-1 研究

なし

5-2 学会・研修参加

【研修会名】第75回西部在宅ケア研究会

【主催】西部在宅ケア研究会

【日時】令和7年7月9日(水) 19:00~21:00

【場所】鳥取県西部医師会館

【参加者】長谷川洋子

【内容】研修会のテーマ「新しいエンディングノートについて考える」であり、米子市長が「これからの時代に備える 米子市独自のエンディングノート『私の人生手帳』について」の講演があった。米子市はこれまで高齢者対象に終活の啓発を行っていたが、2035年に75歳人口がピークを迎えることなどから、医療と介護双方のニーズを有する高齢者が大幅に増加する事が予測される事から対策を検討している。その一つとして本人の意向に沿った医療や介護を提供できるように、人生の早い段階からの取り組みを行っていくという内容であった。

講演後は、グループワークが行われ、現在米子市の既存のエンディングノートを使用して、その課題や強化ポイントの検討を行った。課題としては、内容が「死後」の記載内容が多く、生きている時に記載すると心も悲しくなっていくという意見があった。記入する時期によっても考えが変わるため、「人生手帳」というネーミングならば老若男女問わず記入できる歳時記のようにするとよいという意見もあった。

【研修会名】鳥取県訪問看護ステーション連絡協議会 令和7年度研修会・交流会

【主催】鳥取県訪問看護ステーション連絡協議会

【日時】令和7年8月23日(土) 10:00~12:00

【場所】倉吉交流プラザ

【参加者】長谷川洋子

【内容】研修会のテーマ「コーチング研修～コミュニケーションスタイルで苦手な人とのコミュニケーションが楽しくなる～」山陰労災病院勤務の足立里美講師から、自分の性格からコミュニケーションスタイルを知ることで、相手とのコミュニケーションがとりやすくなることの講義があった。講義後は、自分のコミュニケーションスタイルを分析し、そのグループにわかれてグループワークをおこなった。同じスタイルのチームなので、話し方、考え方が似ていた。他のスタイルグループの意見を聞くと、しゃべり方の特徴や雰囲気も違っていた。このことから、性格は千差万別のようになり、苦手な人にコミュニケーションをするときは、自分をおさえるのではなく、相手が好むような対応方法を選択すると苦手ではなくなることが理解できた。

【学会名】第15回日本在宅看護学会学術集会

【主催】(社団法人)日本在宅看護学会

【日時】令和7年11月29・30日

【場所】名古屋市ウインクあいち

【参加者】長谷川洋子

【内容】学会のテーマ「2025年から2040年へ 社会インフラとしての訪問看護ステーションの挑戦」

大会長のシンポジウムでは、2040年へ向けて人口減少から社会的側面を念頭に置いて、医療の提供が現在の延長で良いかを説明された。ありたい社会を創るために病院中心の医療・ケア提供が効果的なのか考えるべきであり、社会が変わるのではなく、変えていく看護業界のパワーが必要ということであった。2040年に訪問看護のありたい「社会づくり」ができていのかを考えていこうということであった。人口や医療者が減る社会でも、看護でつなぐというシンポジウムでは、医療従事者不足からICTの利用やAIの利用についての講演があった。その中で、T-HOCが行っている携帯エコーの活用について看護教育機関でもエコーを使った講義が増えているとのことであった。

在宅医療推進支援室より

鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター

在宅医療推進支援室副室長 雑賀 倫子

本年度の「在宅医療推進のための看護師育成支援事業」には178名の方に受講いただき、21施設において実習を実施することができました。また、多くの講師の皆さまに研修会や講義をご担当いただきました。受講生をはじめ、受講生の所属施設、実習協力機関、そして研修講師の方々に、心より感謝申し上げます。

今年度の特別セミナー「在宅における共感とwell-being」は厚生病院にて開催しました。医療者のウェルビーイングへの関心が高まる中、シンポジウム、短編映画の上映、ワークショップを通じて、自身のwell-beingを見つめ直す貴重な機会となりました。参加者からも多くの反響が寄せられ、今後の実践に活かすことのできる有意義なセミナーになったと感じております。さらに新たな取り組みとして、訪問看護能力強化コースの講義および演習47科目のうち7科目を、受講生以外の訪問看護に関心のある看護師や医療・介護福祉関係者に公開しました。多くの方にご参加いただき、訪問看護に対する関心の広がり、学びたいという意欲を実感する機会となりました。この取り組みは来年度も継続してまいります。

本事業は、鳥取大学医学部附属病院において平成26年度末に在宅医療推進のための看護師育成支援事業を立ち上げ、附属病院医療スタッフ研修センター内に在宅医療推進支援室を設置したことから始まります。平成27年5月には、在宅生活志向(Home Oriented Care : HOC)の育成を基本理念とした3つのコースからなる「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」を開講しました。開講に先立って開催されたキックオフ講演会のタイトルは「咲かせよう 笑顔の花を在宅に」であり、この理念は現在も事業の根幹として受け継がれています。事業主体が県西部にあるため、西部での開催が多くなっておりますが、それにもかかわらず中部・東部からも多くの方に足を運んでいただいております。県内全域からの参加があることは、在宅医療の推進に対する期待と関心の高さを示すものであり、私たちの大きな励みとなっています。受講生の学びをより一層支援し、鳥取県内に「笑顔の花」がさらに広がるよう、来年度も尽力してまいります。

今後とも、本事業へのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



上半期 T-HOC支援室スタッフ一同



下半期 T-HOC支援室スタッフ一同

鳥取大学医学部附属病院
在宅医療推進のための看護師育成支援事業
令和7年度事業報告書（第11号）

発行日 令和8年3月31日

発行者 仁科 祐子

発行所 〒683-8504 鳥取県米子市西町36-1
鳥取大学医学部附属病院医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室
TEL 0859-38-6994 / FAX 0859-38-6996
<https://www2.hosp.med.tottori-u.ac.jp/hoc/>



印刷 今井印刷株式会社